本草綱目名所圖會

二

地
二
ノ
三九

915.5
327
Vol. 3

木曾路名所圖會卷之二

目録

寢物語里　和射見野　車返坂　○今須
妙應寺　青坂洞　親鸞聖人旧跡　黒血川
常盤御前墓　黄鳥瀧　大台吉隆塚　開藤川
不破關　戸佐々宮　月見祠　不破光治砦
○關ヶ原　美濃中道　紅中重治城址　首塚
関東與市茅社　天武天皇行宮　桃賦　伊富貴神社
班女旧蹟　野上里　垂井　垂井清水
美濃中山　不破頓宮　垂井頓宮　民安廃寺
南宮金山彦神社　○　十禪師社　高山右近神祠
勅使殿　蒲摩堂　蘭大神　元三大師堂
以上龍飛御宮　人祠　本地堂　藥師堂
龍飛御宮の三重塔　釋迦堂　山王祠
落合祠　明千寺祠　稲荷祠

滋賀縣立彦根學校

氏神祠　荒神祠
祥財天祠　金毘羅祠
子安祠　金毘羅祠
千手観音祠　神田代祠
神明社祠　天満宮
地蔵堂　大領神社
勉学堂　狛犬
空地堂　五層石塔
年地堂年中行事
素絹之國
美濃御山　養老滝
相川　金蓮寺
國分寺　喪山
御勝山　青墓里
金生山　甲塚
呂久川　寢覺里
結祠　後光嚴院帝小鴻頓宮
名産酢瓜　美江寺
谷汲観音　糸貫川

中殿高山祠　十二面観音
高山祠　人祠
十八末社　十王堂
松下祠　法華堂
七之宮　十王
國府宮　観音之祠
石高居
南宮　年中行事
養老祠
春王丸墓
安王丸墓
青野ヶ原
小篠竹塚
赤坂
杭瀬川
美江寺
糸貫川

活湯神　忘八
日目上人茶毘所
幣掛松
朝長墓
子安祠
笠縫里
そはのすさび記
自然居士墓
席田

船本山　○河渡
岐阜　稲葉山城
長柄川　鵜飼圖
天神社　往来松
比奈守神社　新加納
御井神社　各務野
村國神社　○鵜沼
岐蘇川　○太田
名産美濃紙　太田川
○伏見　在原行平塚
可兒藥師　本願堂　魔堂
深宮　和泉式部墓
永保寺　平巖

○河渡川
稲葉山
岩田小野
瑞龍寺
飛鳥田神社
針綱神社
惟子山
名製関鍛冶
懸王神社
鬼首塚
○御嶽
庚申堂
一石清水
月吉日吉里

乙津寺
因幡神社
○加納
茜部神社
加佐美神社
例祭祥の圖
岩窟観音
名産修学桃
金山古城

○細久手

琵琶嶺
竈山
西行硯池
根津甚平墓
中川神社
母衣岩
伊勢泰宮別道
○大井
坂本
恵奈神社
○烏帽子岩
七本松
紀かし山
八幡宮
與坂番所
○大歓
西行墳
大井橋
○中津川
落合霊社

蝸牛岩
疫病
天下
鞍馬

疫病
物語
里

木曾路名所圖會卷之二

寢物語里

[illegible]

義川記

[illegible]

右左見くらべは近江吳服ふくろの山をたけてくべる

山義川記に一條禪閤後成恩寺兼良公法名覺恵と号し文安三年[illegible]改大臣同二年閑白文明五年出家同十二年薨を年八十

和射見野

長久寺村の南北田園の地なり

今に地名狐嶽澤[illegible]

天武天皇大友皇子に襲まとらひ武鳥市王子れ陣営を祈幸

[illegible]

日本紀に見えし

万葉

眞木立不破山越而狗飯和射見乃原乃行宮尓安母理座而天下吾妹子之笠借手乃和射見野尓吾者入跡妹尓告乞

同

夫木

真菅よる紀の[illegible]

公實

あけくれの[illegible]

同

同小云天武天皇の天智帝の[illegible]

第良

[illegible]

車返坂

長久寺の東二町許[illegible]

[illegible]

[illegible]

関ヶ原より一里むこう岳益堂書しるす宿東の端ふ
今須 岳益堂下中山坂より清水と和字くゝ又訓を手向山
車なり嶺ふ多く神社あまはを向て通る渓
義川記 一支関ふあるれは茶支をだくさき制とり屋
山ふ神やいるをれを白山ひ紅葉ふのぬさをうたへ
妙應寺 今須の宿中小の東ふあり青坂山と号ス曹洞宗西受 華長公
法華宗なり寺領二十石同山八道元禅師の二世義と和
尚幸頼ふむ建立ス今須の城主長江八郎右衛門重泰の母善
提の為ふ建立ス今伏見宮御祈願所とする妙應寺の鎮守なり祭神豫倉
青坂祠 宿の東小の側ふあり祭神五郎景政ス霊社祭法重泰の祖父秀泰ふ義久の礼法ふ
あり土地ふ属しは祠を建ふ
重泰ふ系ふ改七世の孫なり
親鸞聖人舊跡 今須の東西来村聖蓮寺ふあり
系ふ親寺此の寺ふあり
桂木 聖人まぢ〳〵極の人ふ成ふ茶ふ回遊ふてもおく遊世
撃〳〵回遊ふ其地洋〳〵
黒血川 今須の東ふ中村の小の方の流をり
川幅いと狭し
富士紀行
之よりやゝくだれは名の毒ふ黒血川ふ名の毒ふ流れの赤ふ
卷之三ノ三 義川記

義川記 黒血の橋ふ名の起
太平記 白波ふ岩根ふかれしも黒血の橋の名ふ
ちゝ付利と称ス白〳〵と大将軍ふ高氏後宇野恭門摂津守を細
川刑部を楠親春作ふ本利友成頼作ふ本佐渡利友入道乃至子良道江
守秀綱氏外諸国の大名五十三人勢合其勢を方好騎二月四日勢を向
日六日の早良ふ近江と美濃の境ふる黒地川ふ長ふあり奥勢も揖井赤坂
ふ来ふ向ふ風ふれをこうふくおの屋しやて来ふ関の義川を屋て渡ふ
ふ黒地川をあて〳〵真間小陣ふて取ふ引ける押いふ〳〵今ふ引るふて
勇士猛将の陣ふ反ふく敵を待ふ来ふ水ふさふふ事也
こ義ふあふ今大河と渡ふあて陣と取ふ事を赤一ふの兵法ふ
むし〳〵漢の高祖と楚の項羽を天下ふ事八年ふ間戦ふ安止ふ
けるふある時高祖軍ふまけく逃る事三十里討張ふれふる云と称ふる
三ふ修験ふも見ざりふを項羽ふ十倍方騎ふを行くこれを追ひふるヶ其日
既ふ暮ふ夜明は漢の陣へ押よせ高祖を一騎ふ亡ふん文明ふ
義川記 義血の橋ふ名の起 義長公

れありとなき勇名ある高祖の臣ふ韓信とらひ〳〵兵法大將ふるしてはと取らせるふ韓信ワざをせ背ふ大河をあて〳〵橋ふ焼落しまを折渡させ拵へうけること能々迷も兎るまし〳〵所を知く士卒一引も引ふくみふ討死せよせ不うんなの謀なり後ふけまへ項羽の臣十万騎ふくおしよせ敵ふ小勢なりせ侮く敵を即時ふ変せんとん其勝祭礼としてたれを頼ん

ひとりなる武韓信ガ兵二千餘騎一足も引を死をあ〳〵ねしふく親ひ名極ふ項羽名ちふうち負く討るく云北方人迎ふ武逆支ふ十餘里るう泥をとうひ法を固くこうもてを敵よりもかるふ支得しせ橋ふ引く背を長てうける漢の兵勝ふ乗く今背風ガて項羽の陣へ寄んとうしけるよ韓信兵北をあ川先〳〵中ふるい赤男ふ風う背海なるみふ持とこ為の兵糧を棄く其囊ふ砂をのく拵べしとを下知しけ兵ふな知ふあ事うふとうひふうう大將の命に従く士卒みふ持所の糧米を捨く其嚢ふ入く項羽ふ陣へを押よせる彼よ入く項羽ガ陣の極を見るふ泥方留泥式さうひ

沛城陥て烏の足も立たぬ波なれば陸地をわたる氏附韓信
待せうる所の砦囊城沛ふ城へ入れて其上城ワてうふ涙
沛さうに平地のわし項羽の兵二十万騎経日の軍ふ疲る且疲れ
敵寄屋に通路しゆ沛ふして常細とらく優うる所に高祖の兵七万
騎騎関をゴ門せ沛ふてく押よせてれば一戦ふも及ず項羽の兵十万騎騎
みふ河ふおぼまてく付まふ沛ふ
ゆ
ゆ
ゆ

同　頼むそよせんの花のまゝそも神ゝこゝ物とあふぎまつるせく　一条内大臣

同　はゝ人ねいはむひとりもれた世の中に名河とてこゝん罪れたちの　後人ゝこゝん

新千　数ゝ世せんの義川でゝ紅葉のわれ千あ人世ゝ法之ゆ　法華三蓮華

千載　ゝちの川の瀬もゝゝこゝたはゝこゝて秋の紅葉ぬしはけふゝ郭　坂古

名寄　雲かゝく神ゝを浮世の山風ふ駒ゝちふゝむ用の神ゝ川　秀能

同　さゝても紅葉の川ゝ無名をゝゝ神ゝあはしゆゝ紅葉の実の義川　二条関白良基

建保百首　吹ゝをゝ風ゝ浮世のゝゝん猪をゝゝゝく出るせんのゝゝ川　藤光

同　春の嵐ゝゝゝる浮世のゝゝゝゝゝゝ花をゝゝゝゝふ実の義川　能顕

雪玉　法ゝゝゝ紅葉井の浮ゝを浮ゝく歳をゝゝゝるせゝゝのゝゝ川　内大臣実隆

新撰万葉　数ゝ多れ花のゝゝゝ義法華経世ゝ無せゝゝれゝゝ川　中院通村

十六夜日記　十八日みの〳〵國小関の義川ゝゝゝ行ゝまゝ川ゝひゝ浮ゝゝ

義川記　義川の橋ゝん桁の桁ゝゝ浮ゝとゝゝく　同　同

弱ゝゝゝゝ幾ゝ浪をゝゝゝゝゝ義河の橋　一条兼良公

ゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ流の浮ゝゝゝゝゝ義川代ゝる世ゝの義川　同

不破関古蹟　松尾村の内西の方義川東の数村ゝゝ武蔵今大未戸とゝゝ　同

不破の関　武ゝ皇二年ゝゝゝ関を建ゝ

千載　あゝまゝる不破の関屋ふ結ゝ荒ゝ代ゝ逢ゝゝゝ義ゝ　大中臣親守

新古今　人ゝ西ゝふゝの関屋の板庇あまゝゝのゝゝゝゝゝ秋のゝ世　摂政太政大臣

新後撰　秋風ふ不破の関やゝれあれゝくゝゝゝゝゝゝゝゝ月ゝ澄る　信実

新拾　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　徐賢康

後撰　いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　義孝朝臣

後拾遺　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　覆人ゝゝ

御集　不破のゝゝ世のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　所製

文永　雲ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　西園寺

同　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　仲正

同　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　光俊

不破乃や万紀をふちわらん嵐ふく関守り和　陸信

浅茅川百首　東路の不破の関屋乃捨也ぬ紙むすやふゆるやをりしひるるな　仲実

夫木　海ゑ里の六の中山月ハ乃ゆく実屋さひしさ秋ゑ也を与く　光俊

不破の関屋ゑ板びさしもやしきんろ〜ぞ乃わ

和泉式部　和泉とらんとそ思ふ乃ゑ実屋ゑ乃ゆ毎ゑ月ゑ乃ゆ毎ゑ乃ゆ　阿闍

とゑ乃ゑ嵐ゑ木ゑ乃ゑ木ゑ乃ゑ乃ゑ乃

不破の關屋を見ればいにしへ思ひ出られ、くもりはてぬ月の面影、物あはれ、中御門
摂政の詠ぜられし、淋しさ、秋の風ぞ吹くなりける、幸なくして
らんて

あまたの日、不破の関屋の板庇、荒れそこなはれたるを、
戸佐々宮 藤川の東、岩上の西社殿の傍にあり
祭神 天武帝の霊を奠まつる 美濃神名記に
藤川記 むかし清見原天皇東宮のくらゐを辞し、吉野に入給ひしとき、
狩ゆきしとき、大友の王子に襲撃せられ給ひしを、ふたたびのがれ
出給ひ、伊賀伊勢北国を経て、美濃の野上に行宮をさだめ、幸ましまし
日本紀にいふ、ここまで幸遠くあとをたれ給ふ宮の高孫なり
かくふるき人は、ものごとかたくしく、今さまうわべ飾ゆ上なる
かたち、道ふるまひをもとる、

関地男明神

柔良公

目見祠 松尾村の西田圃の中小杜の森あり 春日神を祭る 矢法の中山の麓
小八月十八日月の出の時、松尾村の西北の方、
出羽八郎義の詩、詩に曰、清吟千秋、清吟千秋、幸多し
不破河内守光治墓 松尾村の西北の方、
関ヶ原 美濃
金井 吉中 鍬言秀秋も、ここに備を構へ
慶長戦陣
美濃中道 関ヶ原駅中より牧田へ通ず 石標を建てこれを牧田道
牧田村高田村を経て亀山村
伊勢桑名尾張の宿へも通ずるなり
武道を通るなり
武祠の側より 若狭越前へ通ず 北国街道なり
遠道物
菩乃帰つる、ふるさとに、仕へくゆ、中れ、関ヶ原
矢法の中乃之、我身ふ杜乃ろる七ろ、
妙忠
竹中半兵衛尉重治城跡 関ヶ原中の方、竹ヶ鼻の城、信長公の臣、竹中半兵衛重治の屋敷なり、天正七年の頃
首塚 関ヶ原宿の西北、慶長戦死の所なり

毛沖ゐる史中を見る是其葉れ〳〵るかな

雛原興市屋敷趾　南東の和士彩り海の栗園にあるなり半ばる丸ふ物含て
れと跡上し一人なり其ゐる樋口犬房丸しるしはふ賊

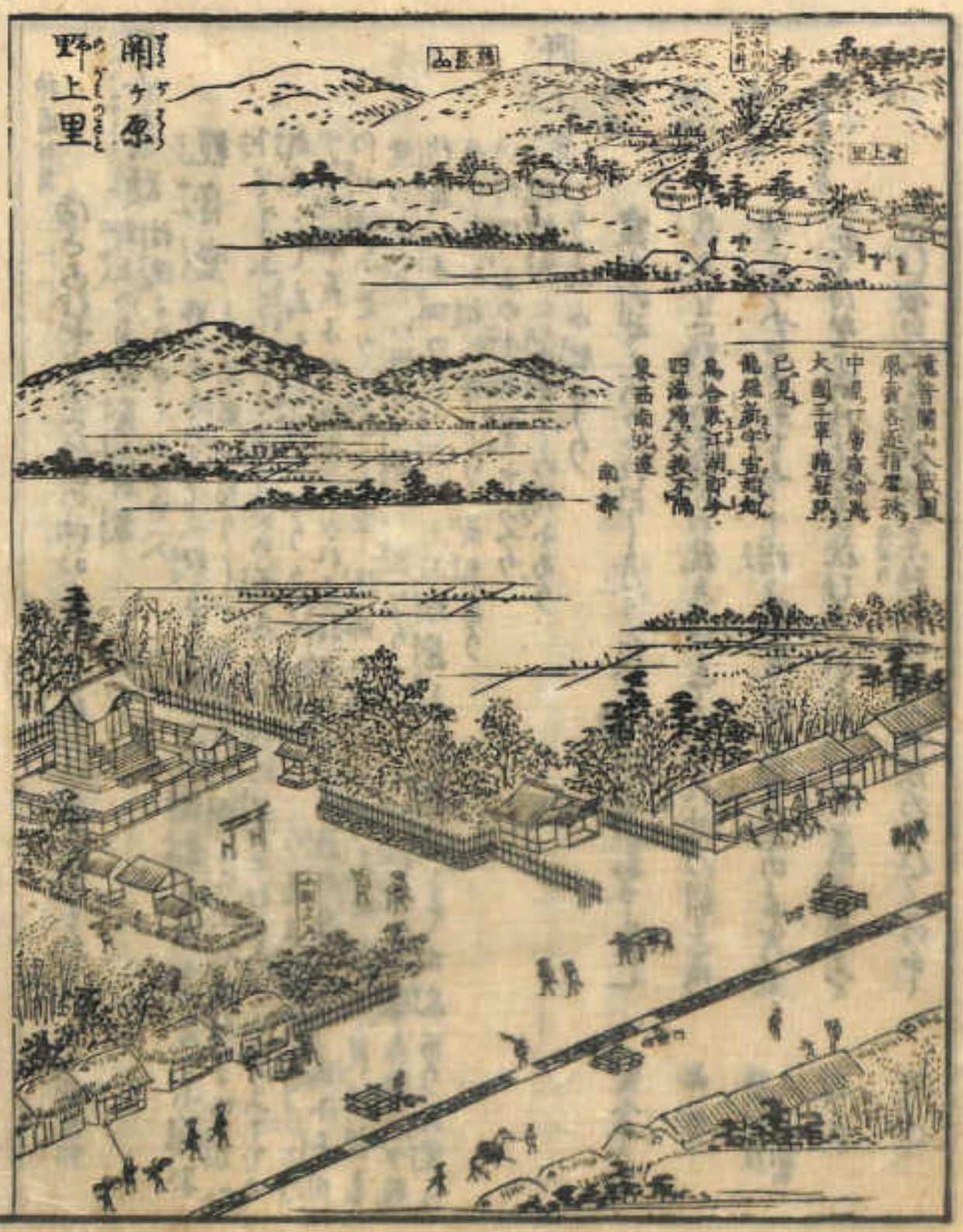
あり〳〵げ迫世
防絶ふれよ

天武天皇行宮　野上村の西地遠右の方故郷の平地をり上又慶長五
年九月十五日神戦なり

桃賊　其地の蔵なり天武帝元年
六月〳〵ふ物まる〳〵ひ

日本紀に
天皇於茲行宮興野上而居焉此夜雷電
雨甚則天皇祈之曰天神地祇扶朕者雷
雨息矣言訖即雷雨止之戊子天皇往於
和蹔撿軍而還己丑天皇往和蹔命
高市皇子蹕令軍衆天皇亦還于野上而
居之

伊富岐神社　野上の小伊吹村ふうり
延喜式不載郡三座の内
祭神　鶴鷸草葺不合尊　鳥羽の郷伊富貴大明神
野上伊吹両村の生土神



神道百首　　上野業郷

ゆさあひやいてさそれ山の神おろしを受りこそふわとれそ

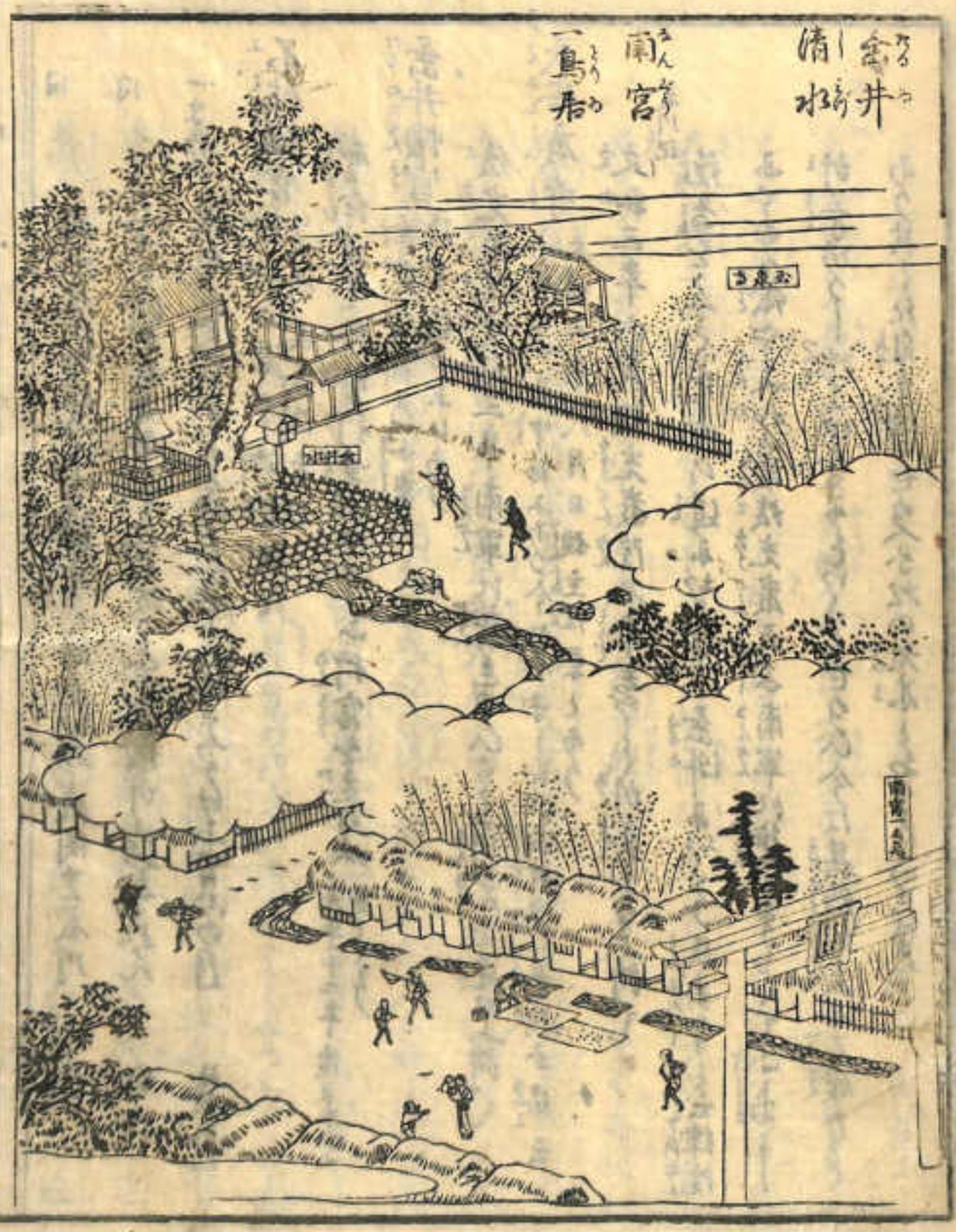
班女舊蹟　野上の南郷藤山の麓

往還よりおしもの方へ

観音堂　野上の遊女なりしが吉田の御殿様と人あげまの方へ

ゆかりふかく泊りかの恋ゆへ一夜の契をむすび又意しまそのの

取見とて扇を手ゆへ小ろうろうろう



あさちふてゝ[illegible]のこゝろよ神さん[illegible]ふん　義良公

山清水を特ゝ清冷ゝ[illegible]ゝ甘く寒暑ふ[illegible]ゝゆゝ[illegible]人

湯氏志のぐに足まゝ[illegible]ゝ[illegible]清泉[illegible]ゝ[illegible]梅雪金ゲ詩乃

ゝ[illegible]ゝ[illegible]

美濃中山　南宮　[illegible]の中山　[illegible]

後拾遺　色ゝ[illegible]美濃の中山杖ゝ[illegible]ゆゝ[illegible]ゝ[illegible]逢坂の関　定家

後拾遺　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]関の[illegible]川　[illegible]

後拾遺　都を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]美濃の中山　後人[illegible]

文本　みの[illegible]美濃の中山[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]川　中務卿宮

同　里[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]中山　[illegible]相

同　[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]中山　中務卿親王

後拾遺集　ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

あふさかる関の中山越えてゆく袖ぬれぬ人義川　日

ふるさとの義経舟をたに不破の山雲ふ親りはやをれん　板門

一ま沙物　紙屋の西の今御所跡と

不破頓宮　雷井の西の今御所跡と

所其お跡なり

聖武天皇伊勢行幸の時ここに行宮を建のこ天平十二年續日本紀見ここに

後柏原院

雷井頓宮　雷井の小屋の裏

御幸道のほとにあり

後光嚴院文和三年南軍に敗れてひそかに行宮を建のこ所し

民安慶寺　雷井の小屋中村ふかう今慶寺とあり　長石桃燈一基殘る云

至德三年八月日願主理覺

文和三年六月後光嚴院乃帝ここにおしし所し

義川記

後光嚴院ふかくこの道ふかむきを雷井ふかくこの民安寺と云律院

ふるめる後や文和の頃後光嚴天ふ南軍に敗れましくて小屋に

引きかくしこの寺ふをもてこもひ今は其跡もなく礎など

あり其こに自ら植こをの人ふ松の老木とあるこある紙ふこ

世ふおの日上天の御所ふたこ民安ふまをこうんしこある松　華長公

義詮朝臣ふ兼ねく後ふ本秀綱を発国ふ備ふ赤坂ふ城ふ率こ後安ふこ

こふ中ふ国ふの勢ふとも後ふんと議せれるが石野殿こう大義院の法印成

大将の為ふ出門へ向よせこうを沙汰しける間坂ふと宮ふふこれん事

思ふふ〳〵こて日六月十三日義詮朝臣龍駕を守護しなく京近江

の方へ落ふ行幸の供奉ふ二條の關白左大臣三條の大納言實德西園

寺大納言實後重近大納言忠秀松殿大納言忠嗣大炊御門中納言家信

四条中納言隆持菊亭中納言公直花山院中納言師定左大辨後光右大

辨經方右中辨時光勅解由次官ゆ紀親野二品親王ふ卯せのふまこく

出世坊官一人も沙ふ石具せこれ龍駕のぶこふ御輿をこ奉ふる武士

ふ足利宰相中將義詮を大將こて細川相模守清氏尾張氏部少輔。

舎弟左京權右史日左近將監今川駿河守頼貞門兵部大輔祐時日左近

藏人土岐大膳左史頼康越後備中守直頼伯耆右門佐信詮

これ[illegible]宗流のくくりて敵合其勢三千騎和泉堂国の渡道ふ駒ばくを光
て[illegible]ら[illegible]る[illegible]ふ故[illegible]に天流寺貞満の子息掃部助貞祐ゑ[illegible]に[illegible]年堂国
ふ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ら[illegible]ける[illegible]其辺の[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ひ[illegible]ま[illegible]百騎人[illegible]の浦ふ
出合て[illegible]り敵を討ゐんとしたまつ[illegible]ゐ[illegible]上を擁護[illegible]て[illegible]二品
親王市門徒の大衆[illegible]ゐ[illegible]異[illegible]て[illegible]せ[illegible]門主ふ[illegible]
弓[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]間坂[illegible]の[illegible]間[illegible]て[illegible]ける[illegible]ゐ[illegible]ふ[illegible]
秀綱三百騎ゆく遠の後陣ふ通[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]門の敵[illegible]の[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]討止[illegible]て[illegible]ゐ[illegible]兵五百騎人[illegible]ま[illegible]ま[illegible]色[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]射
[illegible]ふ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]射[illegible]間[illegible]ふ[illegible]三[illegible]ま[illegible]ま[illegible]浦[illegible]ま[illegible]
寺田八郎左衛門今村五郎一所ゆくみる討[illegible]ふ[illegible]秀綱を[illegible]切[illegible]一族
[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま

仲山金山彦神社 式内 延喜式内名神大社 美濃國一宮と称す

神道百科 あらゝぎ沙名をたのもしく思ふ神歌 卜部兼邦

祭神 五座 金山彦命 見野命 國象女命 鳴山雷命 山三座総神

続日本後紀 仁明天皇承和三年十一月美濃國不破郡仲山金山彦

太神奉授従五位下則預名神

同 承和十三年五月奉授美濃國不破郡中山金山彦神

正五位下

三代実録 清和天皇貞觀元年乙卯春正月廿七日美濃國仲山金

山彦神授正三位 同 貞觀六年五月廿二日金山彦神

授従二位 同 貞觀十五年四月五日金山彦神授正二位

社記云 神武天皇元年鎮坐當國府中又崇神天皇五年十一月中

予日遷座中山麓又天武天皇壬申驗擁時行幸又朱雀

天皇天慶三年平將門叛逆時詔祈誓神功最揭被授勲

一等 後冷泉院康平年中安倍貞任宗任亂亦有霊驗

被授正一位

南宮摂社

十禪師社 二宮と称す 本社の小れあり

祭神 瓊々杵尊

高山太神 三宮と称す 本社の南ふ方

祭神 本地毘耶姫命

隼人祠 四宮と称す 本社のよあり

祭神 大國陳命

南大神 五宮と称す 本社の西にあり

祭神 大明命

七王子祠 七座 大山祇 中山祇 蓮山祇 高龍 闇龍 正勝山祇 雛山祇

勅使殿 本社の小にあり

護摩堂 本尊弘法大師作自作 長日天下安全祈願を修す 十一面観音 不動尊を安す

本地堂 無量寿仏 勝軍地蔵 多門天

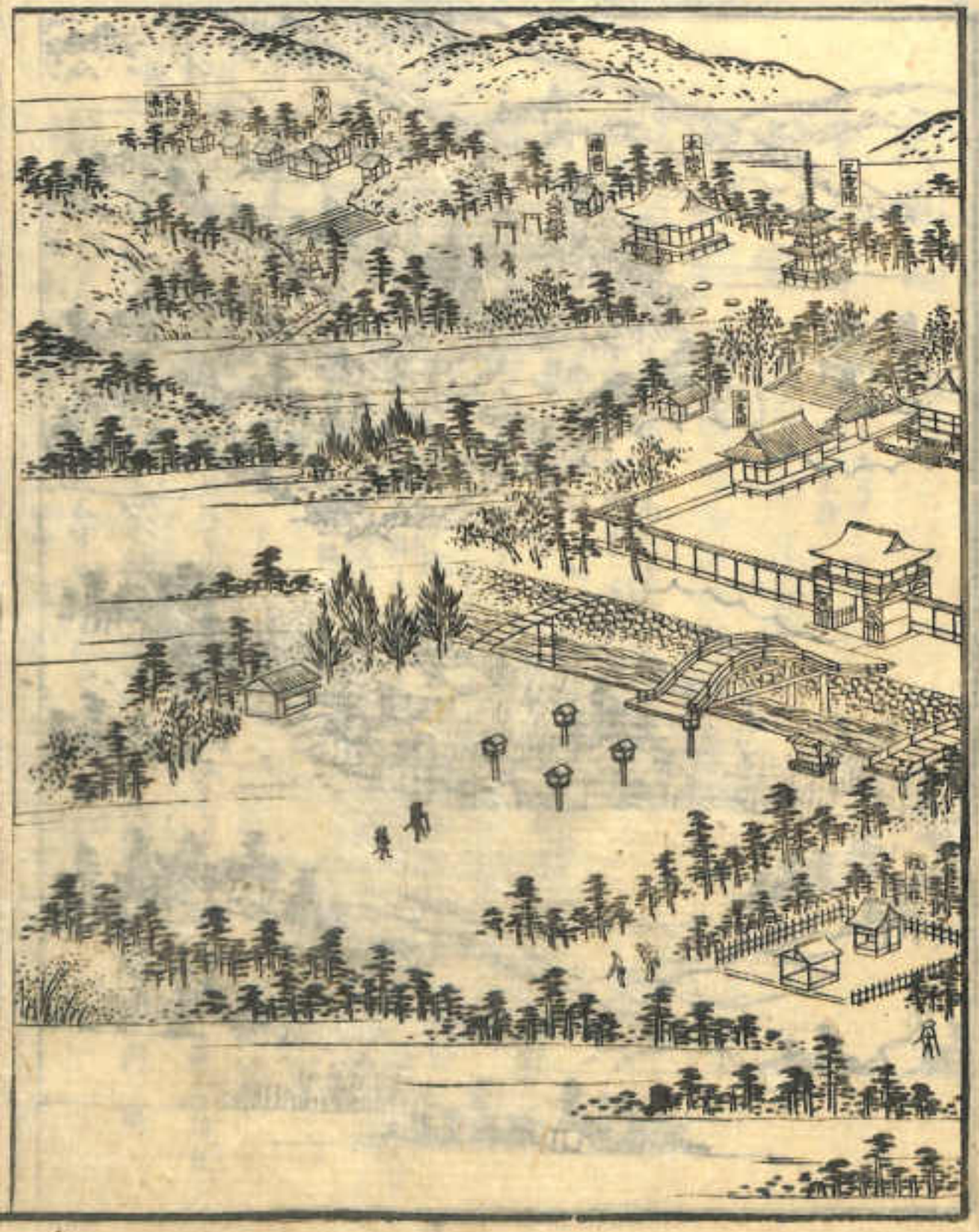
人皇四十五代聖武天皇天平十一年作 基佐正の書創

法華殿南神宮寺と号す 元三大師堂 天喜年中ふ 安置す

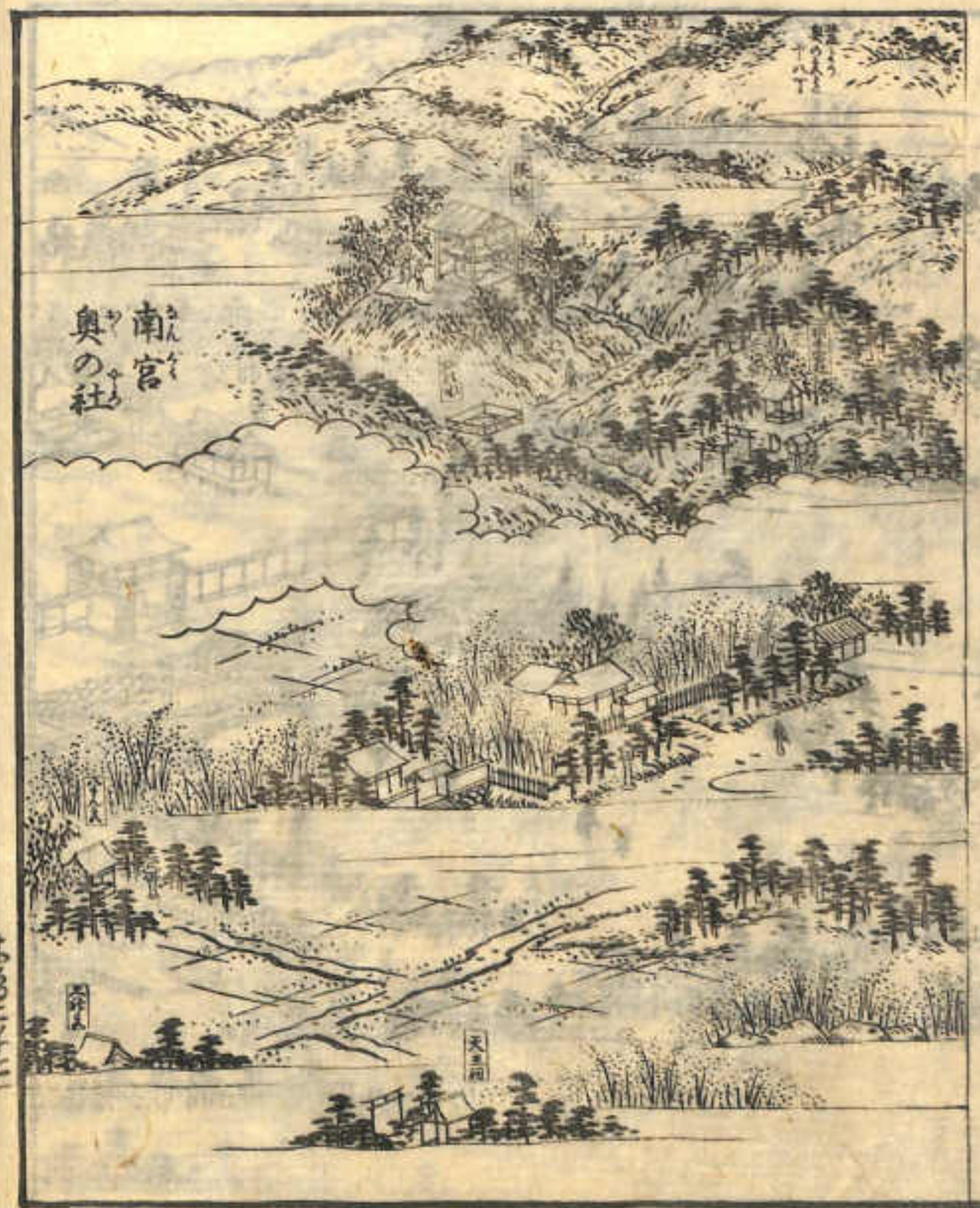
右瑞垣の内本社あり

龍飛將軍家御宮　社頭ハ三重塔ハ別所ハ釋迦堂ハ別所ハ
藥師堂　延暦十二年作　慈覺大師の作
落合社　祭神　素盞嗚尊　相殿五座　平時門調伏の時勅命ハ
て良の方ハ鬼門ハ　ゆゑに
怒ち靈應あらたなり　祭産
胡千害祠　祭神　豊玉姫命　稲荷祠　祭神
山王祠　祭神　日吉七社勅請ハ　氏神祠　祭神　大直日神　二座
荒神祠　祭神　荒御魂神　祭神　南方　社地の神　後の塚ハ魔障
中殿鳥ハ祠　數之祠　數社　祭神　埴安姫
雜財天社
金數金原社　祠中絶
高山宮　山上奥院　神体　蓮の矢ハ　日別ハ
隼人社　神体　蓮ハ　日別ハ
子泰社　祭神　保食神　社地ハ　白の丸石二ツあり　男子女子安産を祈ハ

紫神　天皇五年十一月中子日童女ハ記して言ふ
産ハ吉ハ神おくりとて子安宮を造り其所天皇貴
教弼子安祠のもとに
神明宮　山上ハ　祭神　天照大神　祭神　伊勢
十八末社　神号　卯の杭ハ　祭地ハ
春日　八幡宮　稲荷　児宮
紙園　天満宮　富士　浅間
諏訪　愛宕　多賀　三輪
十一面觀音堂　山上高山宮　祭地　年号ハ甚古
神議　年中　祭創
千手觀音堂　子安社　年地
神田代社　海　墨ハ田植　神事　天平
松下社　八郎　鳥命
衣裳堂神社　天吾高弧　祭神　村へ頭人を
大正十年　其故中　絶ハ
神明沼社　祭神　素盞嗚尊　祭地　一國の
社中絶



南宮金山彦神社
八丁あり



天満宮　社頭ふ
七之宮　大門通ふ　此所山王と東宮の入口ふ
十王堂　同所ふ
地蔵堂　同所ふ
大領神社　同村の内ふ　式内　東神　伊奈門　遠王男　車解男
国府宮　同郡府中村ふ　東神　金山彦神　埴山姫神　豊玉姫
首社　同郡荒尾村南宮ふ　平将門の雲伝ふ　雲伝洞ふ
将門誅伐　秀郷　其首を得て入洛れ終る所其首かの所
獄門をぬけ　関東へ起ん　共首伝ふ　夫の通り
墓ふる者之類　これを霊験あり
神木白玉椿　神前に

動物遺

美濃山の白玉椿　色久ぬ玉椿みの山ふ神や八千代乃ちとせ豊の明ふあひそめけん　榎二位行能

南宮十首

鐘　高サ六尺三寸　巨三尺三寸　八分無銘　利個
　　岐阜駅の西裏の中　孟宗ふ物語　龍宮ふ上ふ

狛犬 [illegible] 佛ニ春日の作

石鳥居額 正一位中山金山房太神と書れ 一品國香院宮尊純法親王の御筆

鐵塔 [illegible] 高サ九尺六寸七分 上段 二尺寸六分

如法經と書写し此塔中に納む年号あり 永正年中近辺之 其後中絶

上重子朝日 晦日ヲ記し 光字アリ

下段 三尺二寸

上ハ菩薩六躰 下ハ四天王ノ像アリ

銘 平氏能登入道沙弥淨普

平氏左京亮氏仲

土岐美濃守源朝臣法名常保

土岐刑部少輔源朝臣頼世

法名真蕪

右兵衛太夫秀行

藤原散位秀顕

古銘ハ鎌倉御代 二位尼建立 其時奉行人ト云

新銘 是ハ應永年中 再建修補ノ大檀越 右兵衛太夫秀行再興之時 奉行ト云

沙弥道順

源盛光 沙弥淨阿弥

勸進聖 沙弥妙全

大工 河内國高大路家久

應永五年戊寅八月十日 敬白

空也上人和歌碑 [illegible] 社の後ろ [illegible] 建修一遍上人 [illegible] 灯圖碑ト 謂ヘ 證道の碑 [illegible] 所 [illegible] 其是 [illegible] 後 [illegible]

[illegible] 社 [illegible] 秋 [illegible] 建 [illegible] 上人 [illegible] 灯圖碑ト

[illegible] 我とるるを南無阿弥陀佛南無阿弥陀佛

[illegible] 社の [illegible] 虛空より [illegible] 感動の [illegible] 仁

[illegible] 日 [illegible] 六字名号 [illegible] 惠

[illegible] 上人 [illegible] 建碑

五重石塔婆 塔の前にあり 銘曰 一切經 [illegible] 轉供養也 文明己酉比丘妙先 [illegible]

○年中行事 神変祭 [illegible]

元朝 大宮 [illegible] 別 [illegible] 式 [illegible]

月 本地堂 [illegible] 開 [illegible] 三朝之間修正會

月　大宮摂社御節會神事

正月十七日　歩射神事

二月八日　牛王供

三月三日　二宮三宮神輿系後の競馬　内馬場渡御系後三家の神輿

五月五日　大宮二宮三宮神輿御旅所園屋宮神幸

六月廿一日　御田植

月　此日　夏越祓

七月朔日ヨリ一七日　本地堂小修法華讀誦修行

月　七日　大宮并本地堂開扉寶物出拝

八月十五日　秋山神夏神前左右以芝佛山稜明月献神供

十月上申日　御鎮座祭祀

月　晦日　大宮開扉法華會

十二月廿七日　御燻掃之神幸

正五九月十五日　大般若経奉諸千度　神樂

月　十一日　本地堂護摩堂修法

月　十七日　宗源三壇修行

正四八十月　毎十一日ヨリ十四日迄三座宮寺宮勤行　十一日　新嘗千度神樂供所

神事祭禮神供調進魚鳥献之

神社考云

其外月次神事畧之

南宮山神者天武天皇白鳳之初所建祭也其華表題曰正一位勲一等金山彦大神金山彦者何神余答曰日本紀神代巻所謂伊弉冊尊將生火神悶熱懊惱而吐即化為神號之金山彦是也此神於五行為金神於是乎其人又言曰初美濃國不破郡府中祭之後移于郡之南仲山故號

南宮祭禮列式

南宮祭祀供魚鳥凡産于美濃者必以南宮為氏神云余復告曰天武天皇自吉野經伊勢入美濃塞不破關遂擊大友皇子蓋於此時有所祈美濃中山而後建神祠耶其人答曰彼社家者亦云余復詰問之答曰朝敵平將門頸傳言飛入洛時神放矢射其頭今俗補箭路御首宮者是其緣也

住吉明連。天慶三年正月於美濃山南神宮寺修四天王法降將門二月十三日午時赤雲自東來入爐壇須臾氣盈場十四日將門伏誅

夫當社武南宮之稱火南方を司る故ふつく辨ふ

陽神ふつく文武兼備ふ故小國家崇ゐる所成る世の驍擢乃ち幣帛あり幸あるべきの所獨天武朱雀の朝小山御神功紙紅國に施し給人慶長の孔丹魚を祝族安國寺ゐ小陣し世美を施排ひ乃ち其后　大獻院公の御附今れぬく速く侍再營あるべしなり

玲瓏ゐる社頭例祭毎三月三日神輿渡御又五月五日も府中村の御旅所ゐ下ゐ六月廿一日御田植乃神事又十一月初申日の神ゐ

丹公神供丹奥物武用也又當社の神寶小大徽冠鎧の図形あり其

新庁孫の陰此ゐ當宮ゐ小今の陰乃ち所小本社あり寛永

以来山下に遷座ある本社の前小約殿拝殿幣殿楼門左右小督長

石反搖搖拝神樂殿御供所神庫神輿舍社僧集會所社人十

二人社僧十二坊其外生去の面々辺隣小多し陰晴武嫌ふ治し

第ゐ小南國一宮と稱ゐ乃ち

五日の中乃ち乃ち乃ち稱乃ち南宮の

長川記

とこのゝ地さえかくしくなちさ白ゆひひろ風流のゝ笠なしとあらとゝあや
昔のめくゝばゝ前ゝ遊女などゝゝ又新ふあや光ゝ流ゝてゝん
幸放ふをゝゝざわゝれを

我宿のはゝしゝをゝゝゝの菖蒲草ゝゝひろ移ふ清泉の家　兼良公

養老瀧　名義部多度山美濃國　福井ゝ郡ゝ　美ゝゝゝ郡ゝ　武里許

萬葉　従古人之言来流老人之変若　大伴宿祢東人作歌

云水曾名負滝之瀬

同　田跡河之瀧乎清美香従古宮　大伴宿祢家持作歌

仕兼多藝乃野之上尓

続日本紀　元正天皇　平城宮　養老元年九月行幸同

二年二月再行幸従五位下多治比真人

同　廣足遣美濃國造行宮

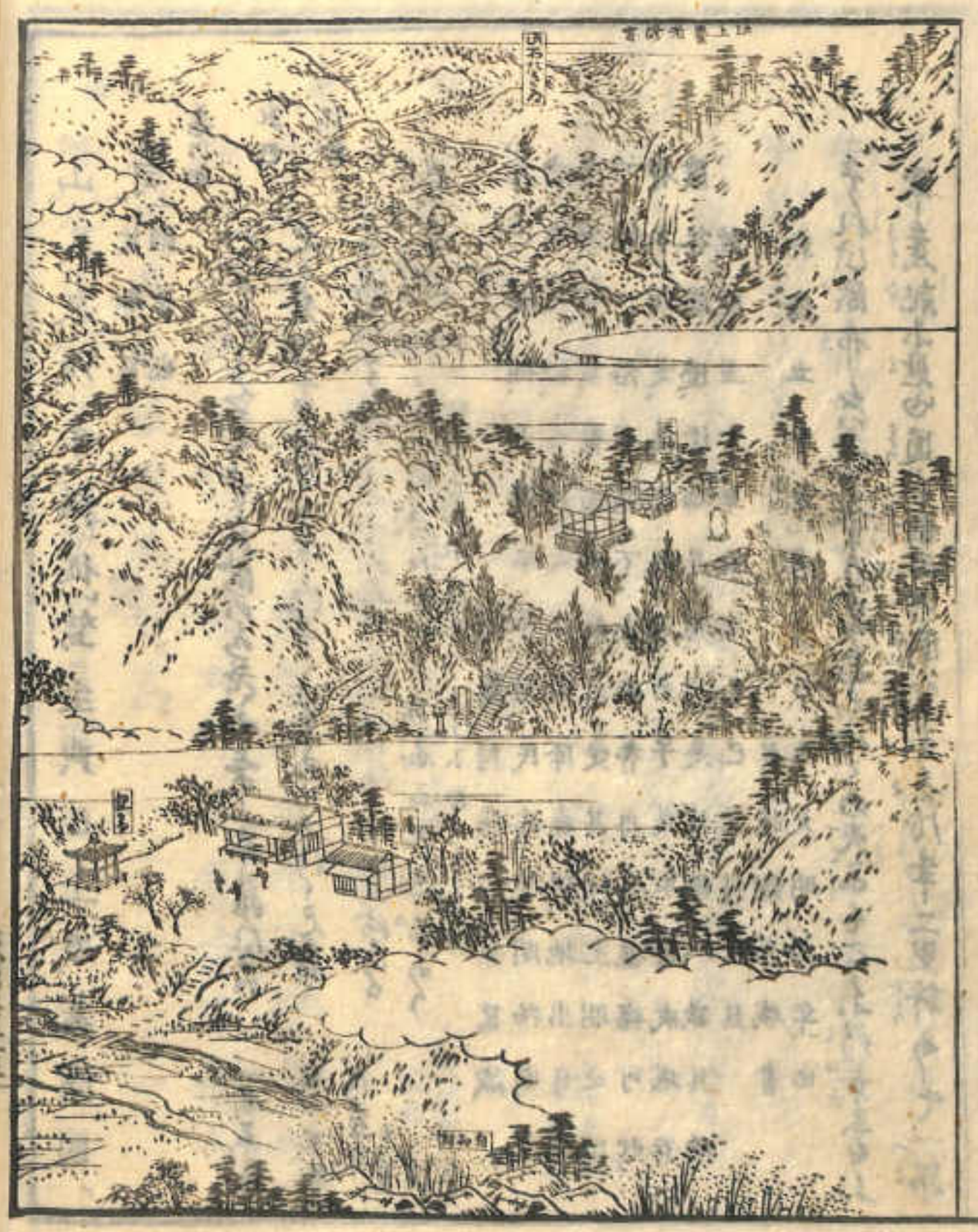
同九月天皇行幸美濃國有當耆郡多度

山美泉戊午賜従駕全典已上及美濃國

司　上朝臣也　笠麻呂

嘉川記　わゝゝゝ

多度山
養老
天神
養老寺



養老の瀧

養老の地あり。その稚を高田とゝ号し、山路ふかく登れば養老亭
てゝ所あり。て山間ふかく風流の樓を建て其傍ふかく流れて入湯の
人妻老ひ孤湯あり。くゝに浴し、老ひ孤風ゆ。この傍ちかき洞窟
なる洞を妓婦出く。筝弦弾ぜ三弦を調じて裏孤伴ひ
書老の祠あり。ゝゝの渓流ひゝて渓河を越石を伝ひ淡孤
登て瀧を見れば其高遠ふかく張隆ゝり山を多度山
とゝひ瀧の流を田蹈川と云又瀧のかゝりに信夫石とゝ名石
出る石面ふかく衣笠の接形あり又根芋山不の名産ゝ他境ふかく勝れ
て雪孤し真ふか花帯文が瀧の詩ふ自然洞を下りて欲とゝひ
もゝ称ゝ多や比せん名ゝ称ゝ山は玉景一の名ゝ高ゝ
美濃御山 玉野の西北南宮山を云
新古本 ありひ知やこのおもしの松をこそ見ゝ
新拾遺 いてゝこにみのゝおやゝのあとゝふる花ゝんをゝ

作勢

亀山院

續後撰　いにしへ天法の御世の若松幾千年をかへぬる　和泉

新後撰　恵しるみのの山の雪ふかくもゆきてをくれむ　西園寺

同　むかしそなるけふの花なりかく天法の御山の陰の古枝を　西氏

後千載　忘れぬ天法の御山のけぶりもすみと共まん名残惜なん　後西園寺入道

續後拾　過ぬる御法の松の葉はれて天ぬ関の藤川　北条内大臣

文永　松ぬそる天の御山の春ぬそ夏ぬ時も色々なり　西永

同　ぬ天ぬ山ぬ毎ぬ春ぬ時ぬ色ぬ色ぬ色ぬ　徳雲法師

現存　古ぬ山ぬ山ぬ天ぬ法ぬ山の玉ぬ箱ぬ開ぬ時ぬ色ぬ　東方

宗集　為基の宮ぬ山ぬ天ぬ法ぬ山ぬ章ぬ山ぬ神ぬ山ぬ神ぬ山ぬ　成茂

新撰菟玖波　みの山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ松の葉ぬ色ぬ色ぬ色ぬ秋ぬ風ぬ吹ぬ

同　天法山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ神の豊の山ぬ山ぬ山ぬ時ぬ　基世

宗集　数ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ松ぬ山ぬ山ぬ山ぬ　春好

本家十三代集　春世ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ　小電男平常保

大平記十五　数ぬ山ぬ天法ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山ぬ山

[illegible]

相川 妻籠の前のひがしへ[illegible]藍川と書て[illegible]系のゆゑ[illegible]川と石川大[illegible]門とかゝれ今の表ハ[illegible]

[illegible]

喪山 妻籠の東川の[illegible]の遠分の[illegible]

神代巻云 所卧喪屋此即落而為山今在美濃國

藍見川之上喪山是也世人惡以生誤

死此其縁也

青野原 妻籠より[illegible]道の[illegible]

[illegible]

[illegible]

交木 [illegible]山[illegible]を[illegible]ほとゝぎすを青葉ゞ系[illegible]

[illegible]村の[illegible]

幣懸松 青葉ゞ系[illegible]の方半町[illegible]

又青葉の一本の松[illegible]

傳云朱雀帝の御宇東夷平将門退治の時中山金山[illegible]を神ホ

被ひきくして幣掛松の名[illegible]賞せ[illegible]

賊[illegible]ホ[illegible]んで[illegible]を集[illegible]害を[illegible]

土人熊坂[illegible]見松[illegible]古代の松[illegible]

極彼の松[illegible]

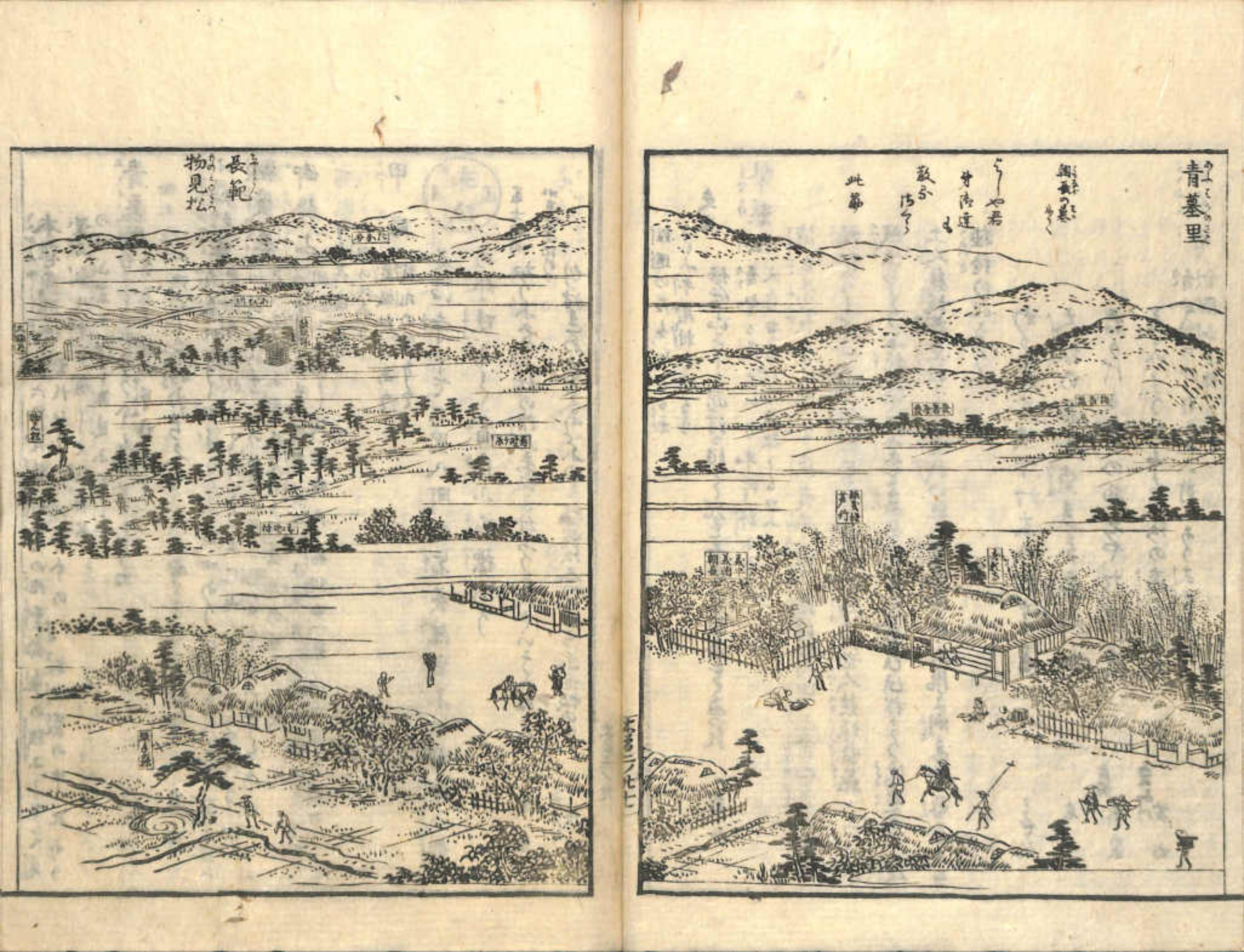
わる暑く吹や一下木の松[illegible]

大切の名を[illegible]

君[illegible]の[illegible]見や松[illegible]

君[illegible]松[illegible]の直[illegible]

國分寺 清水村の中程小に入所ホあり[illegible]


青墓里
長範
物見松

本尊薬師佛 弘六の作 [illegible]

[illegible] 中古 [illegible] 又信長公
の時 [illegible] 建 [illegible] 里 [illegible]

青墓里 [illegible] 八駅 [illegible] 今 [illegible]
青墓の義の茅 [illegible]

拾五

一 [illegible] 遊女 [illegible] 長者

小篠竹塚 青墓に [illegible] 駅 [illegible]
東海道 [illegible] 沢 [illegible]

朝長墓 [illegible] 長 [illegible]

御勝山 [illegible] 長 [illegible] 東方の [illegible] 平 [illegible]
[illegible] 時 [illegible] 勝利 [illegible] 山と名を [illegible]

[illegible] 南 [illegible]

竹殿の [illegible]

甲塚 [illegible] 村 [illegible]
[illegible] 塚

美濃 赤坂

美江寺まで二里八町 [illegible] 宿 美濃国不破郡安八郡
の郡境 [illegible] 宿 [illegible] 石標 [illegible]

富士塚 [illegible] 富士塚

[illegible] 赤坂より [illegible] 杖の [illegible] 赤坂より [illegible] 人 [illegible]
[illegible] 赤坂の里

子安祠 赤坂宿の小郷の山の麓にあり [illegible] 赤坂の
[illegible] 二代貴様 [illegible]

奈神神功皇后 [illegible] 上 [illegible]

金生山寶光院 赤坂宿の [illegible] 寺 [illegible] 十石
真言 [illegible] 大歳の中に [illegible] 法大師の作 [illegible] 山
[illegible] 三月十一日 [illegible] 寺の [illegible]

本尊虚空蔵菩薩

鎮守御嶽權現 [illegible] 三月十三日

寝覚里 赤坂宿の [illegible] 八幡村を [illegible]
遊覚 [illegible]

支本

風の [illegible] 神 [illegible]

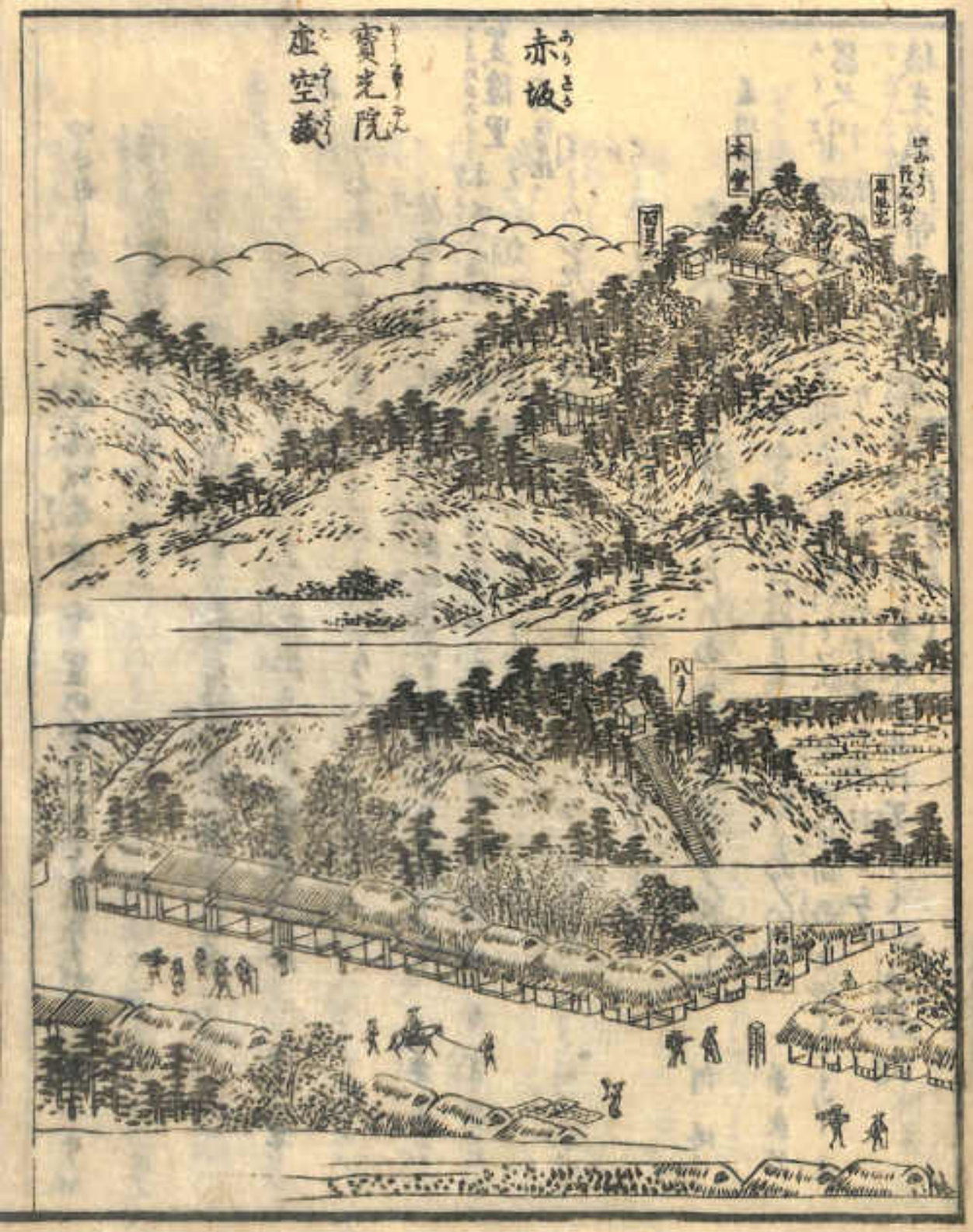
杭瀬川 赤坂宿の [illegible] 下流 [illegible] 杭瀬川村 [illegible] 宿 [illegible] 川 [illegible]

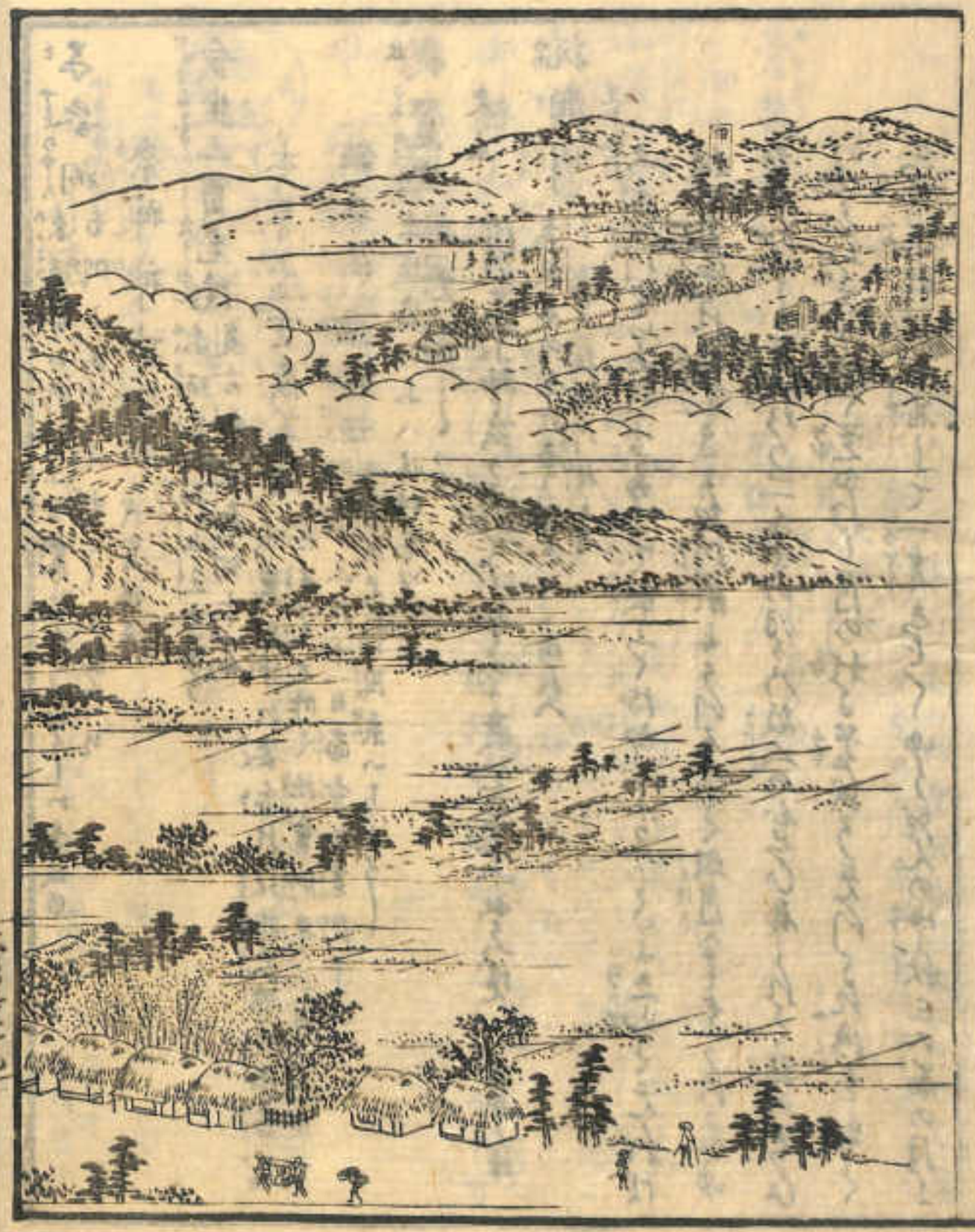
[illegible] 川 [illegible] 三里 [illegible] 人 [illegible]

杖の [illegible] 川 [illegible] 月 [illegible]

[illegible] 二十里の [illegible] 人の [illegible] 藤の [illegible]

[illegible] 月の [illegible] 人の中杖 [illegible] 月

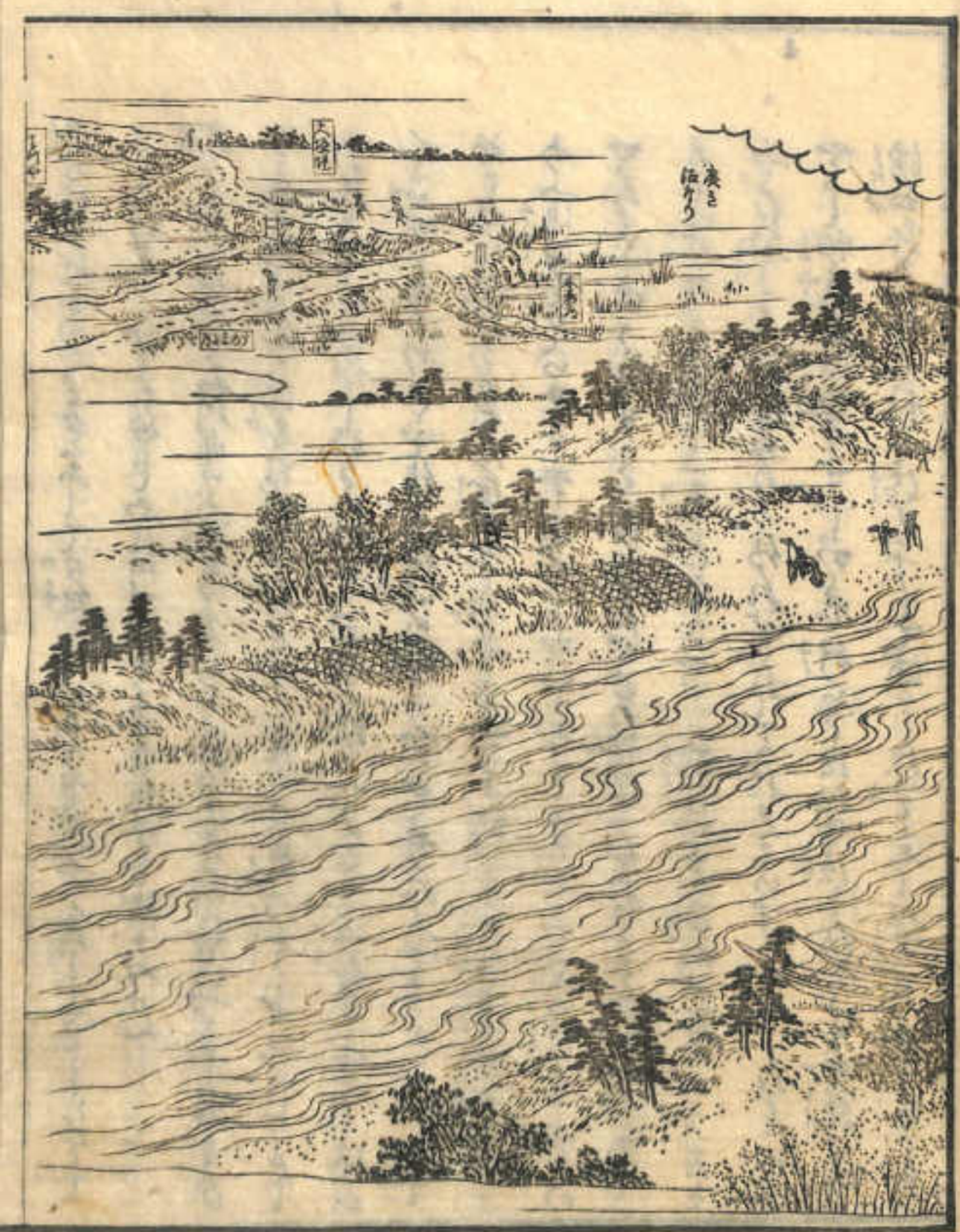

赤坂
寶光院
虚空蔵
本堂



いてうまめうのく遠情式香途一千里の雲ふとくれかたとあるを家ん
陸奥に書はてるはしてあ
きくきうれ秋のまれくそ青くとのれ旅夜の月をたむと
基士紀行　　重春
ゆくれて旁なりしにの名乃杭瀬りしめて紅やはふん
兼川記
くるる瀬川せうくしを所とぬるひくくつうて
満寄ゆ行くれまるに杭瀬の月のうとれもうる和歌舞　　華良公
笠縫里　赤坂宿の東南小あり日名を三河ふあうと契沖ゐ書ゆうり
又一説に赤坂宿の東南小あり日名を三河ふあうと契沖ゐ書ゆうり
十六夜日記
関うう明ゆくしはるあ丸ふれよ色くううるは道とてのうてて
うあうるれ小かうあひはもう屋とうて所ふてうある
ひひくきのうち舞ふうくうれ乃面ゐ者う歌笠ゆひのうせ　　阿仲
五川記
あうあ衣みのくゆ中山こくりはぬりとにを出るのくぬひ乃里　　華良公
呂久川　呂久村ふあう川ゆ上ゐ杭瀬川とうて大聖勢地田和を経くうて ゐ
後光嚴院帝小鴻頓宮　赤坂宿より谷汲道弘四里りて小鴻頓宮
瑞巌寺ゐいくる

式帝は南軍後醍醐天皇の兵小蔓れのひうくふ陸奥守武時足利武義
の兵城頼くくて英法関小落られ年太平記ゐ見くうう
うはのすくうひ云　　後晋光園摂政良基公著述ゆう
小倉山乃物のせ中院乃帖の唐紙身ののうれ家とたのうと侍し演ワくゆを
ゐうくくくいくくく露の氣もきうあ屋紅葉して地うゐ屋ゆ
うくくくよ紅の小陸くうひくくくくくひされべき
物むはううかうすぞせくくど粧ゐうくくけふうくくくくくうと
ゐりひゐ氣くくゐうくくくくく

志なれたるまこと神仏をたのみ[illegible]
今春さかり[illegible]
[illegible]
[illegible]



吾久門
抗瀬門

道のりとをすぐくとまあて日数のこほりなるべやとまとこたへて

いのまへこゝろあしやこの川のまきまるに世をぬるみん

大うちとけおいてこの川せいとあまてくやふ所しるれたいづくもおりひ

りぬ名あるこの名ばかりしるる縁乃やふすがくしてんも

うまとくてゐたしゐるめたくうくさをふはまでやいうたをりしまるこはム

人ゐ口ゐくえまりくでゐるゐ浮ゐの藏しるやゐ世ゐ上るくしりくゐを

ゐの水ゐ成りゐ中ゐるゐ見ゐくぶ世ゐくやて前して三愛院ゐ西上ゐ

あ道江の方ゐ世ゐ世ゐ事あわて出ゐるゐ上ゐ武の陸ゐる豊乃

ゐくふ興ゐくすくたいゐたゐ姫のふ刻れのゐるゐれまくゐし

まゐの外ゐ世ゐ陸ゐたゐ色ゐるゐやゐて都ゐ方ゐ西ゐ下のゐるゐを

ゐるゐ奇ゐるゐにゐ知ゐくゐれゐれゐこれのすゐゐるゐ世ゐ

ゐるゐ物ゐ氏ゐ心ゐ地ゐゐ世ゐゐて紛ゐくゐ松ゐ陸ゐゐ豊ゐ地ゐ

湧出ゐあれゐるれゐとゐうゐすゐて陸ゐくゐ世ゐ

ゐ世ゐるゐくゐゐやゐて又ゐけゐくゐゐみそちゐゐゐ豊陸ゐ世ゐるゐふゐくれゐ岩

根ゐゐ出ゐれゐたゐくゐゐゐ世ゐゐやゐゐ物ゐ光ゐ出ゐくゐ世ゐのゐるゐくゐ

すゐぬゐでゐたゐさゐあゐく

今ゐゐやゐゐゐ(ゐ)ゐゐもゐゐゐゐるれゐあゐのゐれゐくゐ表ゐ打ゐのゐん

不破の関屋ゐもゐくゐゐたゐふゐあゐ神ゐゐゐれゐとゐゐゐるゐの世ゐゐるゐ板ゐひゐゐし世ゐ打ゐのゐな

ゐゐ戸ゐゐゐゐ我ゐ世ゐゐて世ゐゐ秋風ゐもゐたゐるゐ陸ゐゐゐ陸ゐゐゐん

ゐゐくゐゐたゐあゐれゐゐくゐ不破ゐのゐゐるゐれゐ今ゐゐゐれゐくゐ名ゐゐ世ゐゐゐ

実ゐの薄川ゐ世ゐ名ゐゐゐゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

作ヒ出作幸あらしふ

さてさて紙ゝ山のけしき　庶紙うゝ〳〵んぜうとあらし

神代をうけさゆるゝとぐもちう虹てる者ゝ山ゝ雲おとゝ命ゝ〳〵やそよ〳〵ちる

紙々ゝれ法人作ることひゝ〳〵に為ゝ〳〵幸ゝ〳〵孫食大納言のぼわ作ゝれ

新書の清人中作ゝて〳〵是紙のゝ法人幸にゝ社ゝ者ゝ〳〵て〳〵しをぐ

さゝみ作ゝ八月かゝる雨乃中髮を結ゝて

意天象

初ゝ月をゝ山のゝ雲ゝ小のゝ雲ゝ月を飛ゝて髮ゝ乳ん

藤曙

横ゝ雲ゝ氏ゝ雲ゝ氏ゝ茅ゝ雲ゝ〳〵のゝくゝやゝやゝてゝ〳〵の法ゝ〳〵ゆゝ

以前紙ゝ〳〵めゝて法ゝ〳〵作ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ作ゝ〳〵やゝん粉ゝ子ゝ結ゝ〳〵

しゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

世の人を中くてわ紙さてもはしく人奉幣しくはつふうて人屋敷八月ちごろ
月の日あて有一四人ぜ四ふはたぐちて色ゆうた紅葉の枝ふれる井め
うすやもしたびつしれて仲房朝臣わくんでごされうあ一
ゆうこそ水ぶ流れ水ぶ弱くそ時あもまうあ紅葉ぶをんる

師道一

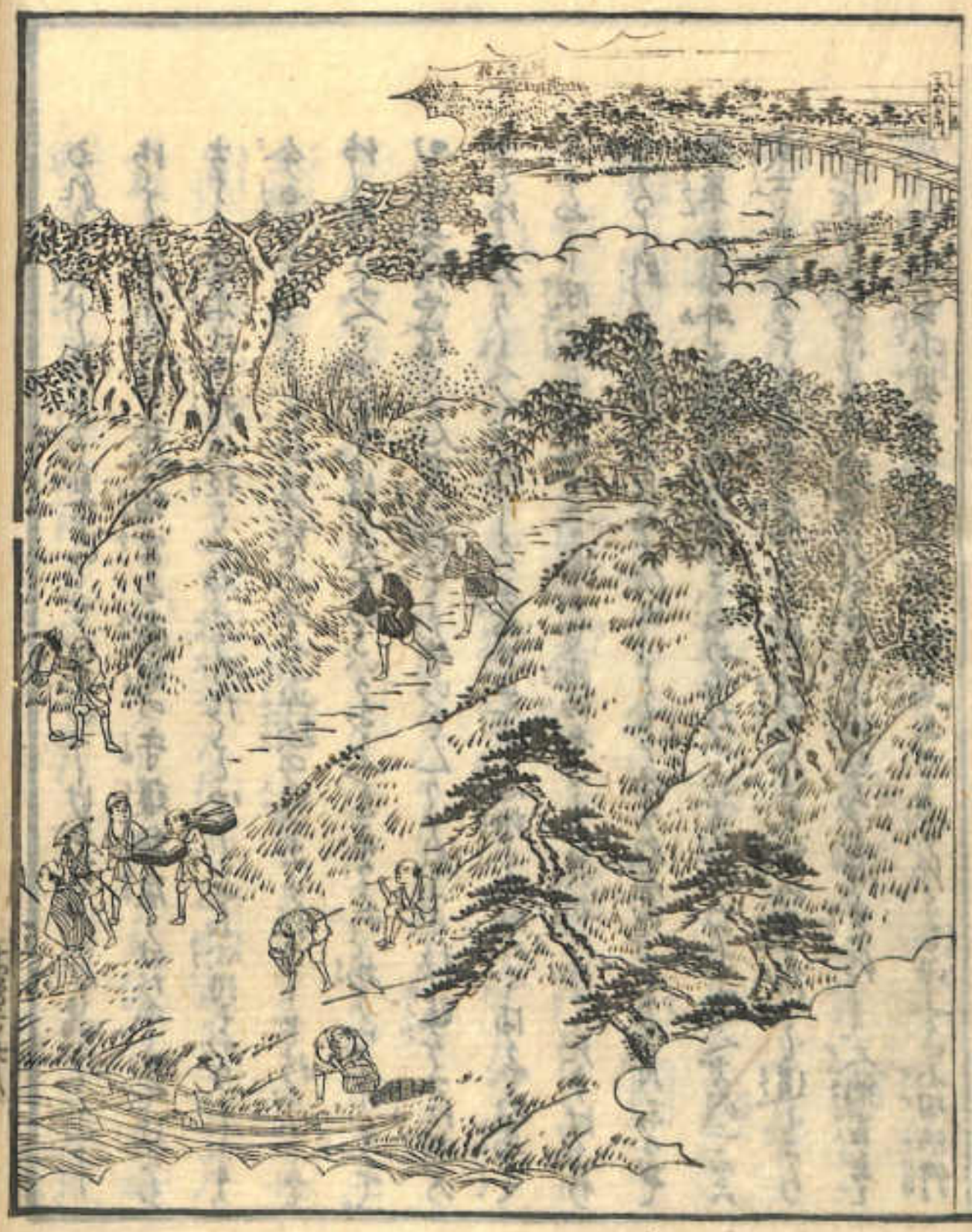
ゆるはくふ伊ふみゆきの行ぶや紅葉の錦ぶいくらぶ井一
有方あまうを月数のこゆるる雨の中いくぐけ上あ雲ぶ井を山高さ
花を拾ひ門う一紅葉はれ一雪ぶにとぶられく炭の紅色あ一ゆく
吹拾一上雲つよすこゆ一ゆうう一まれくぶ紅ゆこ川れ玉ぶ百姫く
ぶのてうふ川わぐ一ぶ紅ぶのたりるはぐむう一本ぶ花どのるを云ける
ぶ入ぶ一ぶ川ふ有ぶ山間のみゆぶあ一ゆえ玉ぶまうぶ代く孫ある
幸ふれぶ踏ぐぶうる一ねどるる一ゆ山乃所をまる紅ゆぶはる紅紅く
都乃ふ一ぶ紅ゆうぶ紅ぶ月ぶ人

本巻二八紙六

陰がはる雨雲ぶあぶ陰ゆ一ぶ二千里ぶ外の故人の心ぶ一ぶ一ぶ
あ陰ぶく紅ゆ一ぶ秋一よ吹陰く風ゆ一ぶ三月ぶ有ぶ今秋の月
ぶ紅わぶ紅ゆ一ぶ一ふゆ一ぶ人ぶ紅殿陰ぶ殿上の所遊ぶ人ぶ
ぶ一ぶ紅ぶ一ぶ人ぶ一ぶ人ぶ一ぶ人

けさに平れ五ちにさ者ども[illegible]ひとつの[illegible]
[illegible]ていてるとそんぢ[illegible]ぽんにと中老の[illegible]前へ[illegible]りて[illegible]の
[illegible]こと[illegible]ぬ[illegible]中ひ[illegible]ぬて[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

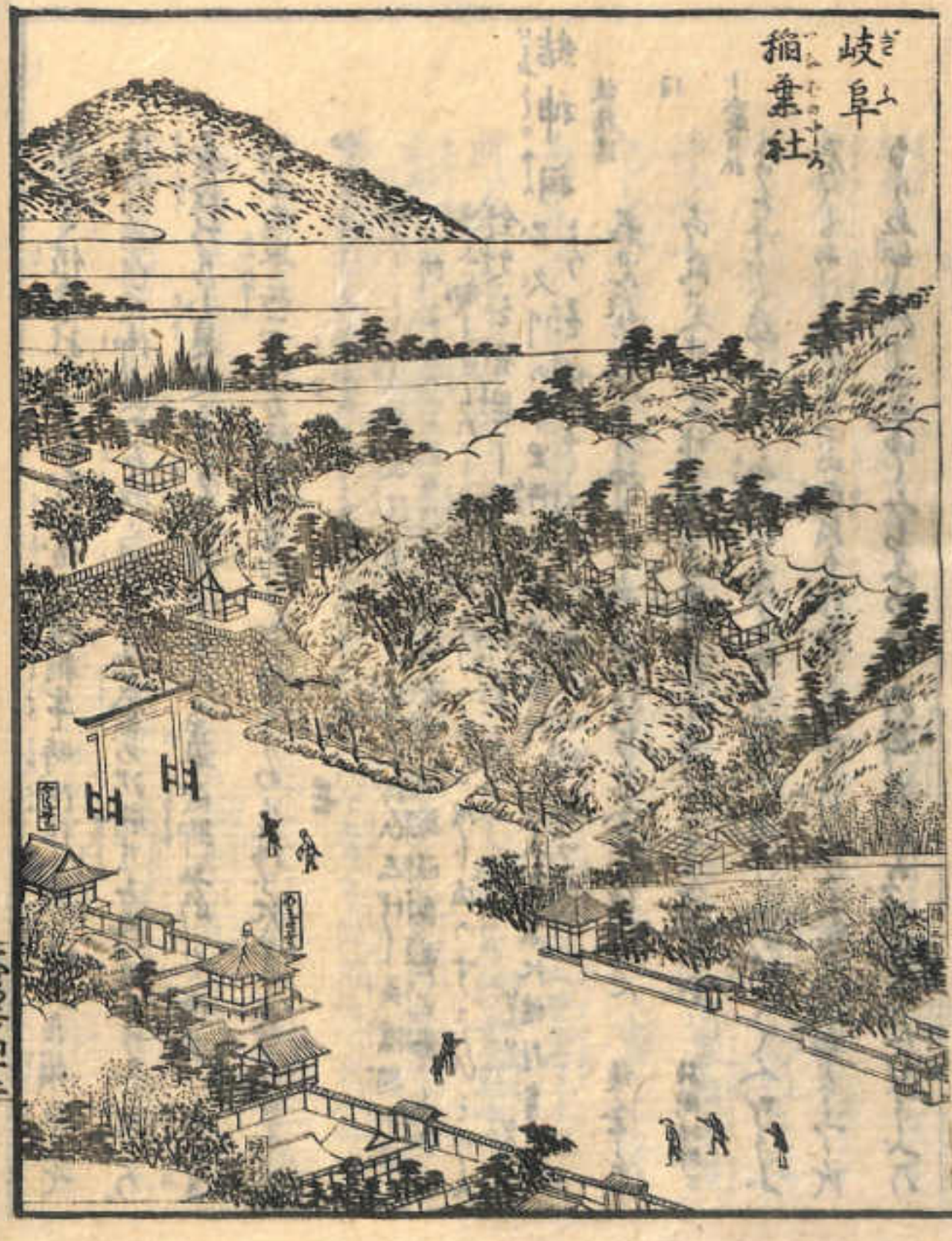
河渡川
北流して
袋野の
山中より
流れ出る
下湖を
明股川と
又



[illegible]の上者[illegible]
めしてそ日[illegible]の[illegible]二日のさ[illegible]
陣ハ仁木[illegible]
将軍ハ馬の[illegible]
馬ハ[illegible]
すぐ[illegible]
馬十疋[illegible]
[illegible]
内裏[illegible]
上よりの中門[illegible]
[illegible]
[illegible]
成[illegible]

けるとて[illegible]
[illegible]
仁義[illegible]
[illegible]
あそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
名馬[illegible]
[illegible]
[illegible]

松殿中納言忠房卿四条中納言たかなかこれ〻仲房卿なり。
御叙位右近衛ノ中将ノ衣冠ノ
御ものくはせ給ふ。兵部ノ卿ノ
御ものくはせ給ふ。
ものくはせ給ふ。
ものくはせ給ふ。


岐阜
稲葉社

神とあをぎゆるしたまふ人は　門帳

神の社にたどりたまふ人は
河波まで一里六町駅中たゝおはしまして巻をなん
降り散乱れ

美江寺（濃）

美江寺旧地は宿内稲荷社の北田地にあり賀茂郡高田郷
土俗頼朝卿田村を表拾し又土俗持益寺ふ敬て義政
其時ふ院北四ケ寺あり新村ふ願真寺あり今新村ふ願真寺と成る此地名ふ
のこ給まつり
自然居士墳　美江寺の宿東端に小側民家の裏竹林の中にあり山地
に移く迷紀れ千躰佛と刻むと
塚のめぐりに多く佛像を流出せり自然居士ふ法号
雲居寺に樹んで駒ふ丸像村福田寺にあり行れる是なる
幸を志ばし
名産紙　美江寺村ふ里ふ美濃紙あり青紙ふ里ふ敬ふ風あて只一種ふ
献上ふ成里ふ和柳ふ成る西ふ性選
谷汲観音　美江寺ふ上ふ里ふ山深ふして通繁し西国札所
三十三番ふ結ふ里ふ寺ふ成華厳寺ふ用碁を豊然

上人とるかく延喜
年中の建立なり
糸貫川　伊都貫川ふ書ふ源ふ郡根尾村の東北流ふ
郡根尾村の山岳を流れ出て下ふ生津を南り
長柄川へ流入谷川ふ
河波の宿ふその間を生津曝しふ
金華　若狭ふ幾万代ふ引ぬ川ふ流れ川の稀ふ毛ふ
続拾遺　ふ結国のいはねふ川ふ流れそやどる月ふ宮めでる
新千載　国結すむいつぬきふ流れふ松ふ流れ代の数ふ
席田　牟田村ふ一里半ふ郡名ふて
新拾遺　席田ふ上ふ成ふて住ふ郡ふ郷の和郡ふて
は
ふ結国ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ
新勅撰　結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ
新続拾　ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ
は
ふ結国ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ結ふ
船本山　牟田村のあり席田郡の
恵勝の山なり

慈示道経
既道
惟明親王
保胤光
大宰大弐
重家
二条院
大宰世大弐
後人ふ
中院門院

新勅撰

嵐ふく和田の山のをみなへしこれのみふきをるこゑ　　藤中納言伊家

加納まで一里半　宿の東端を小川あり長柄川の下流へ

式部ゆ波奉へ三十町あり

河波（美濃）

河波川　[illegible]

乙津寺　[illegible]

大師堂　[illegible]

五石　[illegible]

[illegible]

河波川をいでて渡村を経て[illegible]乙津寺[illegible]

幸庄の中ばらの村あり　[illegible]

筋遠ふ行所周ふ出く波奉あり

波奉

式部の歌の波山とふ[illegible]

[illegible]

稲葉山城　波奉の北ふ[illegible]

[illegible]

信長の始ふ織田城[illegible]

[illegible]

稲葉山　右の山なり[illegible]

[illegible]

[illegible]

長柄川
鵜飼舟

鵜飼を見く
水も火も
凍し
鵜飼の
長柄川
義為

長柄の
川瀬
みくだす
海大
八幡
美濃

同

紅葉せし秋の梢風小松のこ嶺に散ぬ雲ぞ

稚松拾遺　　藤原隆長

御集

いなば山松の嵐や寒ぬらん人帰りしを里の衣うつなり

文庫

今もなほ恋し稲葉の峯の松移しあらばれて言ぞ

同　　藤原陸奥

藤原する花の下風ふりにしを山の松をひろひ

同　　法志時宗

立帰て今はいかゝ山風に吹ぬ人ぞ秋を稲葉の山風小雪ふりにしを麻を洗ふ

同　　通具

同　　同平

志ぐるゝ時ぞ先の石彼の関稲葉の山ぞいとゞ

同　　慈信

峯の松すゑの秋もうちひさのふる雨宿を秋の風

歌枕名所

同　　社物

ふは山雪れ松風深春てむ雲白く物ぞ秋の月

建保百首

秋の田の人なひとしき白露の稲葉の峯の松風

同　　物部

帰ぬ人ぞ恋ぬ契ぞ頼ぬ　いなばの峯に月ぞ久しき

同幡神社　　延喜式云物部神社物部氏の祖

祭神　五十瓊敷入彦命　垂仁天皇の皇子

鳥居額正一位因幡社　文永四年丁卯法皇二日　従三位藤原朝臣綱書

尚社は元々伊奈波山椿原に鎮座し給ふ天文八年丸子城

毒蝮秀就城を築く時今の地に遷座ある又土人の話に云中ろ

上古々因幡国にあり式神帳あり宝亀金死山と号す陸奥

の金死山に似ることなく神名帳及び三代実録に見えられ物部

氏の祖なりと称し社の傍に小神本三和松ありめぐり尖末社多し中

門田廊石階荘厳石鳥居明神橋庫玉垣絵馬殿下陵の地に流れあり社頭

壮麗なりて殊に波奈一坂金の生土神と称せられ

長柄川　波奈の小川流れ下流に長柄川なり中夏の比より秋まで雑多し

鵜飼　永禄長柄村より尾州侯の命令受て書うとり河上より

漕のぼり因の長柄を照らし松のめぐりふさし出て鵜飼の綱

を持て捕成ぬ又免ぐ〳〵一人して鵜と十二三羽書

はゝ雛はこゝに幸いて奥あり

長川紀

十七日のゝ人帰る序出のほどにはゝ鵜飼を見れば越の松ゝ

ゝ有はゝしてのゝ松ゝ一渡を隔てけくそれゝゝのゝて見渡れば神ゝ

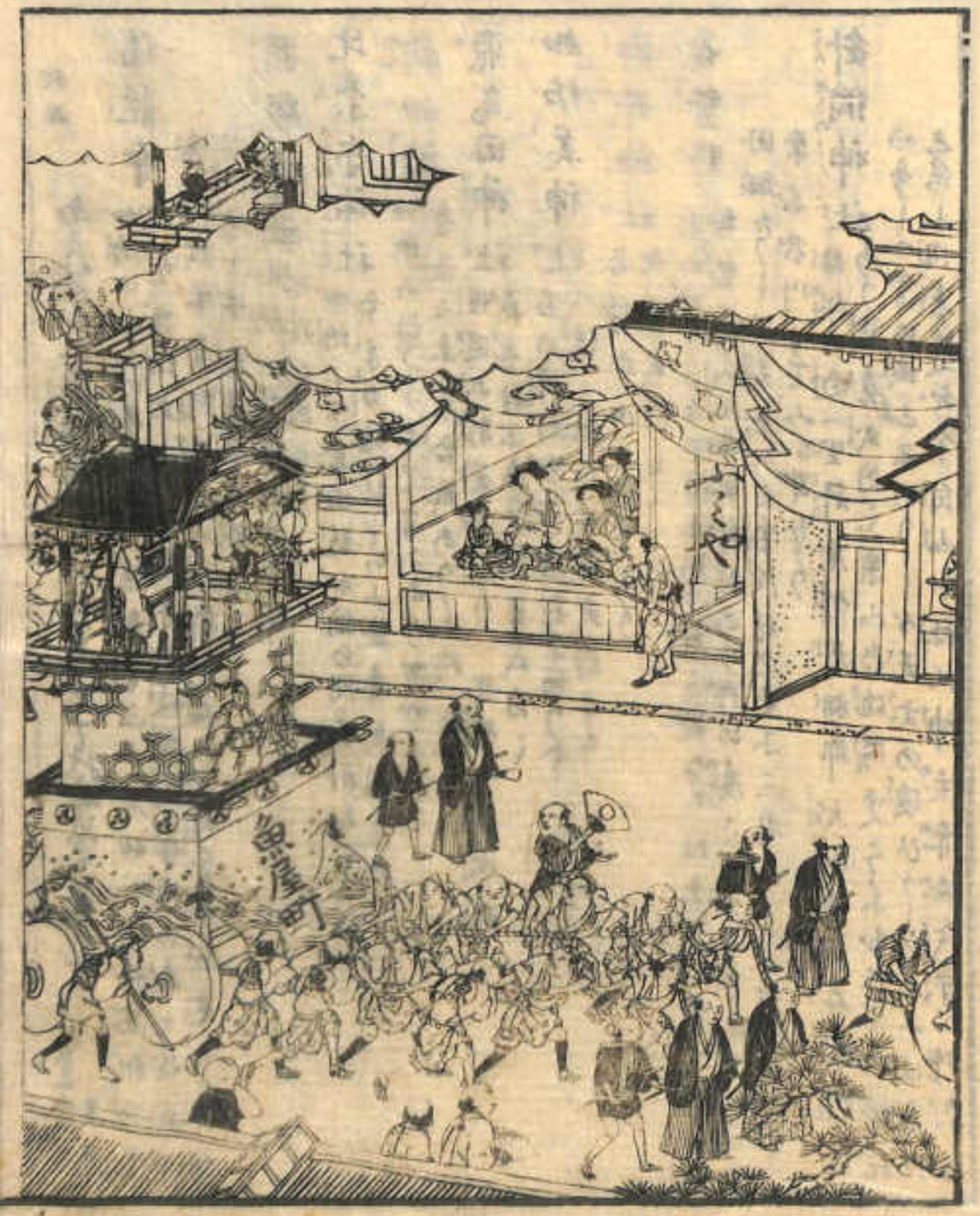
はゝ川のはゝりゝを関ふるれを漁ゝ鵜を遣ゝんとゝ成ゝて

ゝゝゝふゝゝゝゝゝの松のゝりゝしのゝる鵜ゝゝゝゝ鵜を遣ゝ

鵜の魚はゝするゝゝゝ鵜飼乃ゝ縄とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をゝゝゝの表ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

犬山
針綱神社



神輿
神幸あり
社勢の騎馬衆
みなゝ山車武を
動むつし威勢
る例式く

あるべしたゝ通路の松ひとつ口にくゆされ名所なるべし

瑞龍寺 加納の小山の半ばにあり瑞龍寺山と号す妙心寺末法華宗開基鷹仁年中天授寺利春入道の法号を瑞龍寺と号す

茜部神社 加納の西茜部村にあり

比奈守神社 加納にあり高田郡加納の同長柄村にあり今手力雄社と号す

新加納 加納のひがしにそなはる町なり延喜式内なり

飛鳥田神社 慶長五年小合戦あり一里塚小畑原

加佐美神社 右の社村古市場村より今八幡と称す延喜式内し

御井神社 名勢郡御井村にあり延喜式内なり

名勢野 新加納より東の方名勢村あり

針綱神社 田畑村より北名勢村あり南は岩川まで三里許の方あり北の西ハ三井山とゝ山の

月九八日山鉾祭御神幸

鶴沼 美濃

村國神社 名勢郡名勢村にあり式内し

今自山と称し延喜式内

岩田 中で二里宮留間とも書と又賣間の市とも云ふ

尾州犬山の城 見西方名古屋七里なり

東海道 宿の東南可児郡

惟ふ山 可児郡村にあり

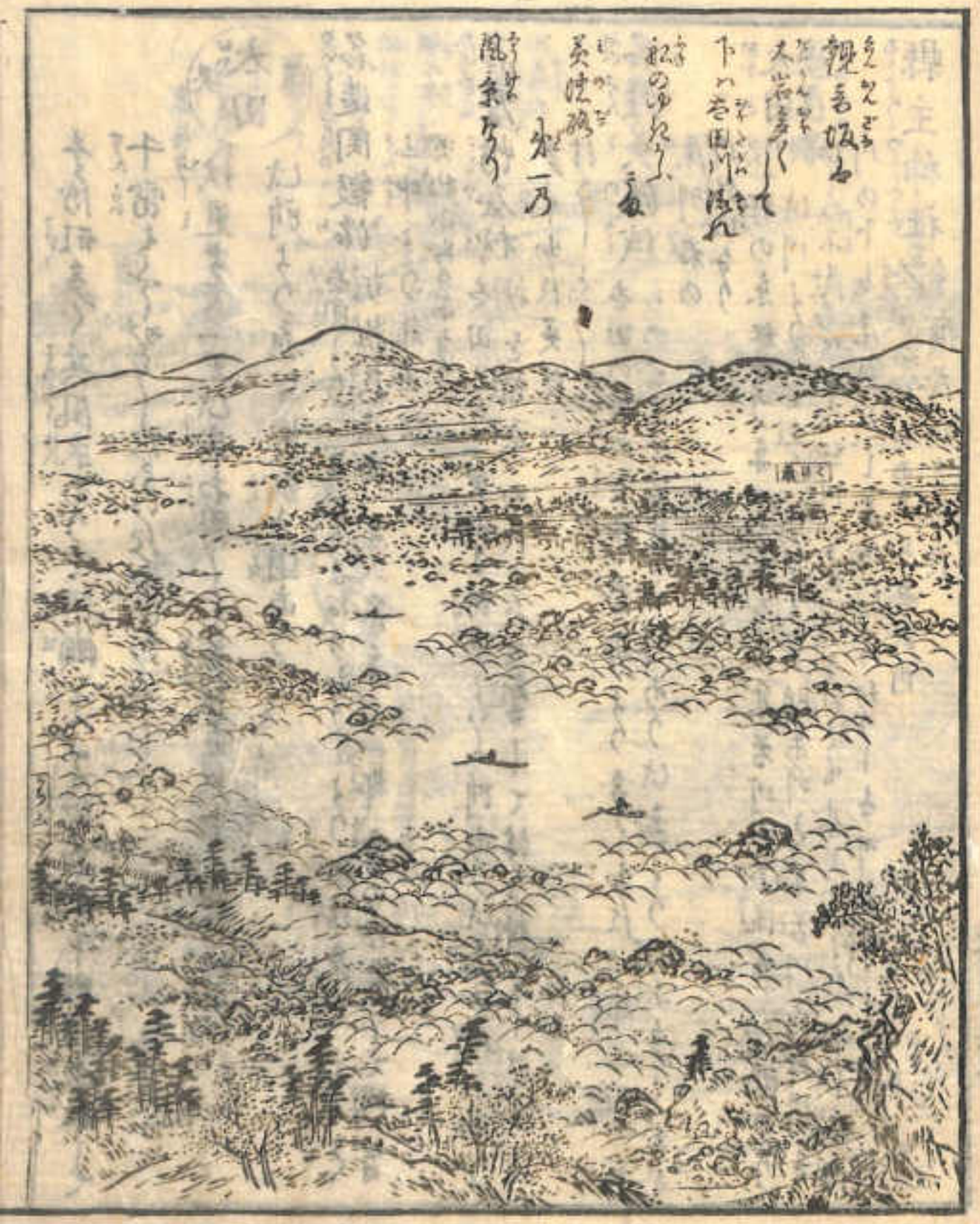
支本 小松原の山の附近にあり

勝山 窟観音 本巻川の大巖の中に石像の観世音菩薩安置し

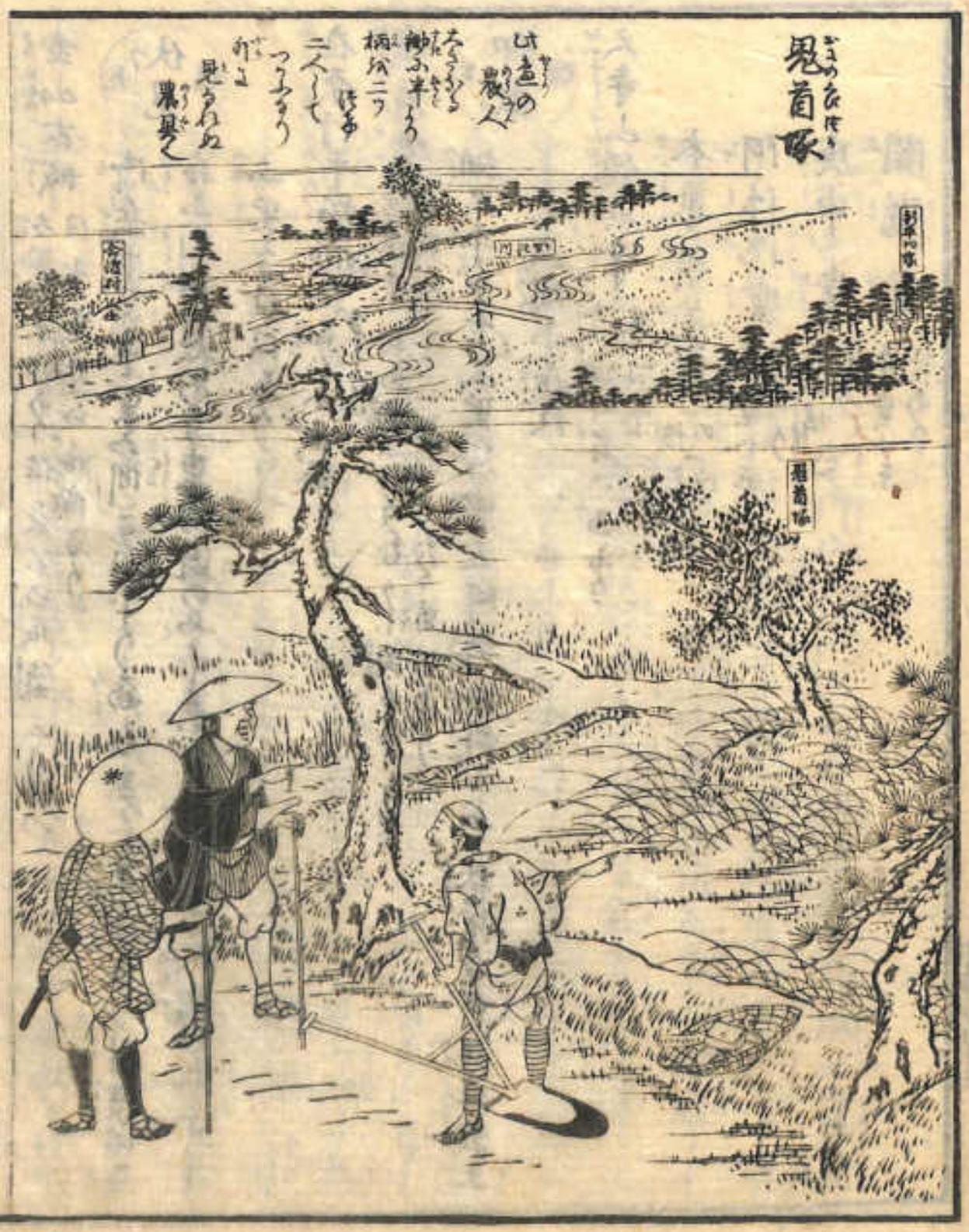
清泉流 出る山側の風色いとゝ奇なり

岐蘇川 一名岩田川とも云ふ

岐蘇川のおくれ早く 川巾の岩多く流れて奇妙


観音坂
大岩
下の谷田川
紅の沖
英流
水一乃
風条

岩窟
観音
坂の方ふ流れ
滝出る



本巻之五十二

本所形多く其風表あつて河瀬をとる船是をめし駿浪多く
千雷もつてくたるふいたるあるべし

伏見中で二里山道より乗駕籠へ越る道あり

太田（美濃）

名産関鍛冶 太田より二里程わるもの多くして
山中より諸道
所々出る不多

名産傘 屋林を田より一里ゆく所あり山道の樹より
多く出る 屋林を樹屋へ出たらん紙製して油を塗る法
はつとつ

名産美濃紙 太田の軒の方武蔵郡より多く出る山郡の間いち
尾州君の
所出る 山道より球ふ多く出る

太田川 山川より一里上る本谷川の下流なり
山の下ふ際合る所あり本谷川飛騨川と
川の下る尾張川し太田川より本谷川より
太田川より細し太田

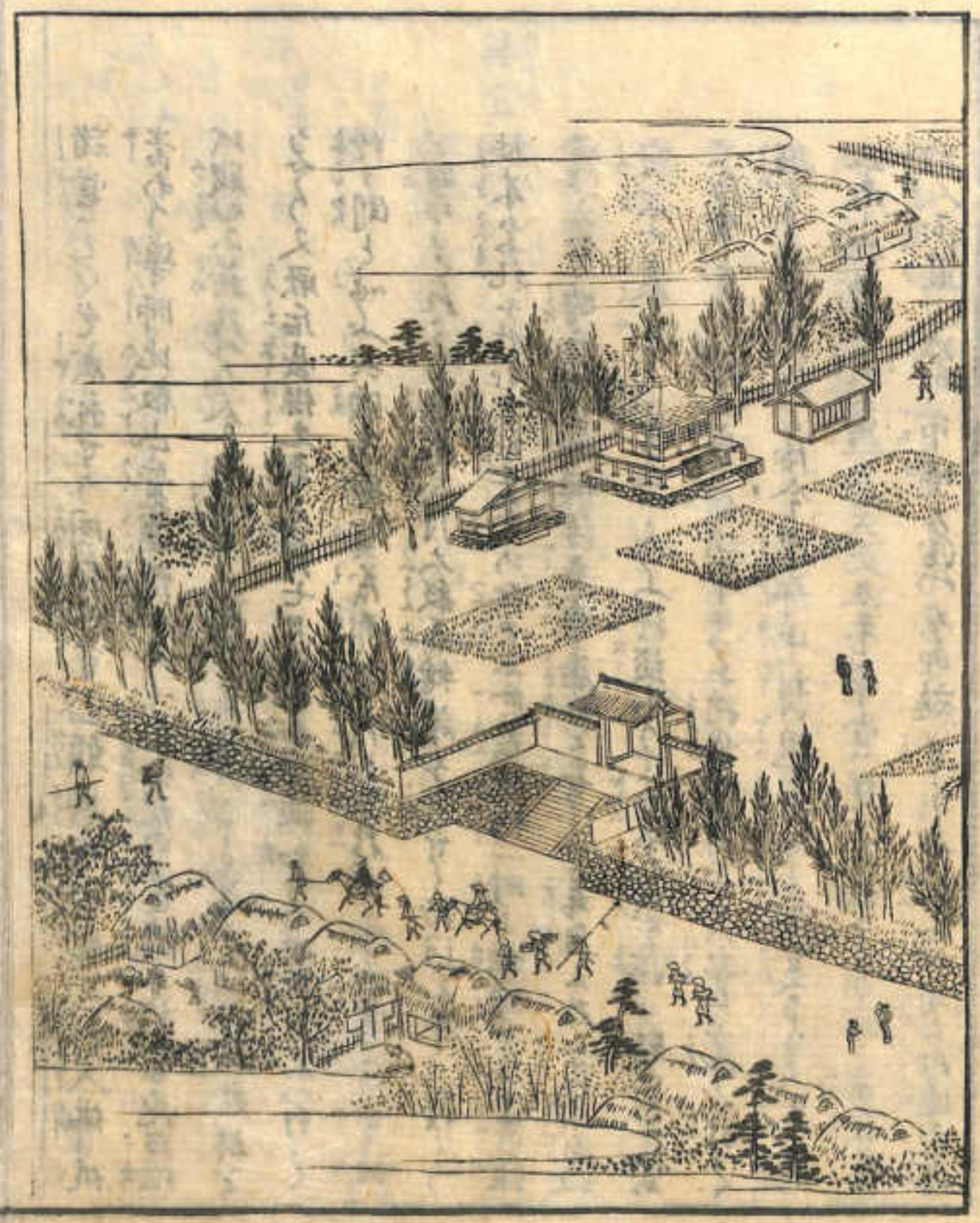
縣主神社 太田の下流喜武内
今賀茂社と称す

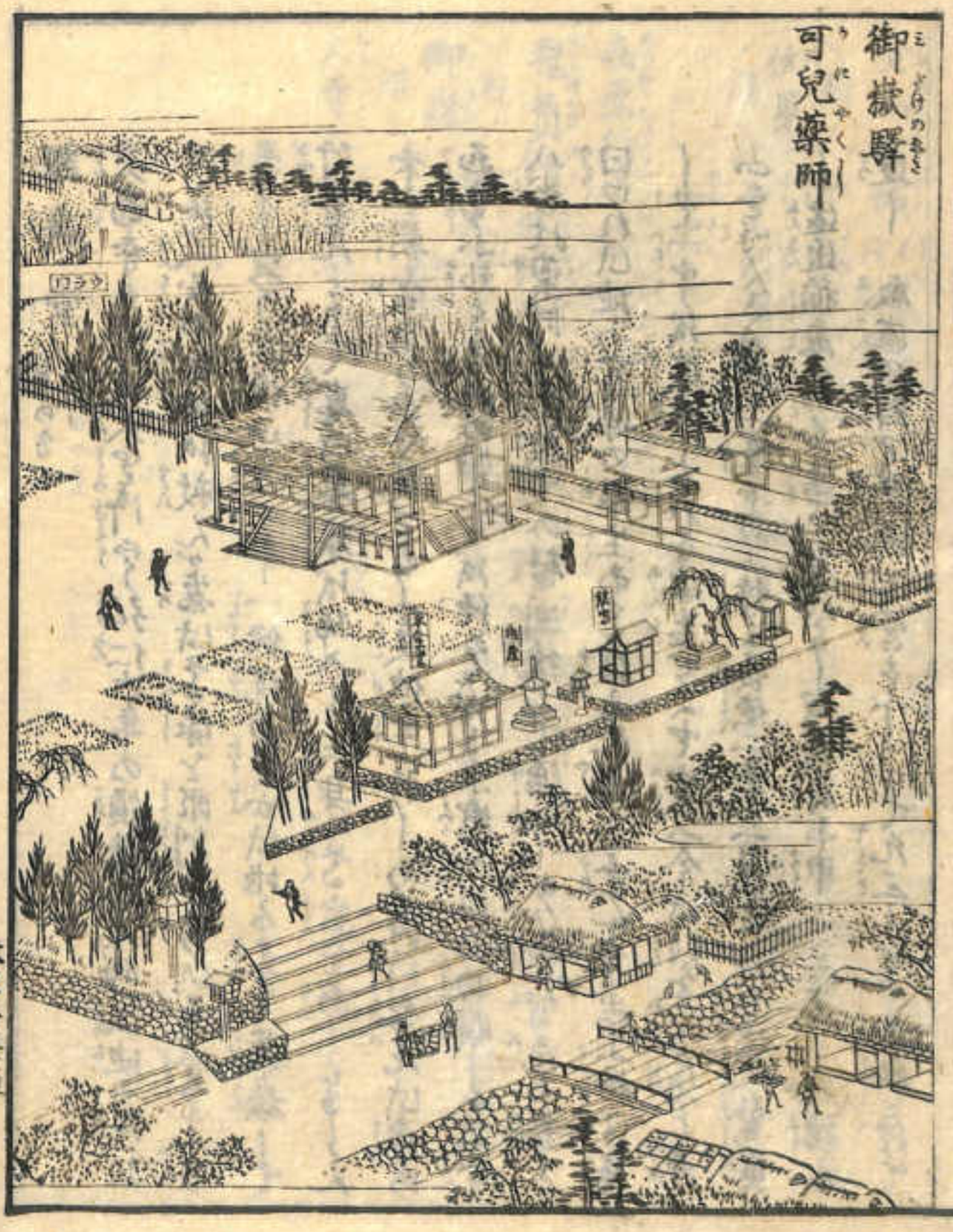
金山古城　左図の東にあり信長公の居城三左衛門
　　又武蔵守の居城なり

伏見（美濃）　御岳より三里西にこれより西方多く平地なり往還の左
右に列樹の松あり東海道の路にして東に列樹の松ふし
山里なればあり
在原行平塚　門の内に小由緑
鬼首墳　合渡中村の間にあり　盜賊あり　それ刑にしたる首塚なり

御嶽（美濃）　細久手より三里宿中五町許ありて巷説なを其形散在
して山間に居住
大寺山願興寺　御嶽の宿の西にあり　天台宗
本尊蟹薬師　他教の仏師の作
阿弥陀堂　本堂の西にあり
庚申堂　右の堂に
閻魔堂　本堂の東にあり

雜摩堂　奥の方にあり
夫齋寺　弘仁六年の頃傳教大師此地に湯殿
を造り給ひ天皇の御願にて弘仁六年の頃傳教大師此地に湯殿
を造り給ひ人民の病苦を救ひ給ふ岩に彫る像を彫刻し給ひ菩提寺安
置し給ふ其後正暦四年一條院乃皇女此地に来り給ひ薙髪して
行智尼と号して専に尊像を帰入し生身の観音を拝し奉る
寺を朝暮参り給ふ尼寺にあり行智尼の寺の
西南に池あり大池の中に弘法大師の御堂あり
八坂の薬師　本来教千の観音園繞して涌出し給ひ行智尼に告げ
曰く此地に有縁の衆生あるを救ひ給ふ為に来り給ふ
一宇を造立せよ　寺を今此所を尼ヶ池と号
山を峰ん　医王峯　時に長徳二年二月七日移り里人驚異
遠近稲麻のごとく集る　幸ひ国府小中に逗留　天聽に
達し　感賞の餘て仏閣造営をなし　七九三年の春秋を経て




御嶽驛
可兒藥師

諸堂ことごとく成就せり因茲大寺山顕興寺と稱し則入佛供
養あり導師比叡山覺運僧正なりて出現の靈像を行智尼に仏
式腹の如く花形なり今本尊八百体素を彫るといへども山日奏賊群を
なす又厩后長保元年正月七日大鯰若狭浦出せり山前と名づけ
紀ケ関とあり其頃尚國賀茂郡賀茂村に於く三千六百人の寺地
と賜はるこれより毎歳正月大鯰若轉讀を設せらるは元年二月より
拔本塔を始む天仁元年の兵火に仏殿僧坊一時に焼亡する其後
正治元年時の領主頻頻源吾盛康力とをして再興ありしが其頃尚郡
寂本の義窟より関左郎と云ふ強盗ありて多く人民を悩ます則宝を捧め
て所事多し仏を盛窟に安置せるに祈誓式なりしが忽ち窟より於く
掘出され前式別ら所今尚郡中村の鬼首塚と云ふ又元亀
三年兵燹の災に羅り天正九年本堂建立の願主として尚秋光
住人玉置与治郎市場左衛門左郎旋主として源志式用られ逐に再

興し即今の伽藍これなり本堂を指間に指間本堂を長四尺寸霊
佛用窟の時業障深き衆親ありしに本尊式物にして嬰児となり拜
其外土佐・御教武田森等式家くこうの乳不乳の乳婦人に霊験あり
寸義ち由緒拳て数ふ小蛇あり式霊なる事山道第一なれば婦人
馬を止発所輿を出く拝金に入く歩行なり

泳宮

御祭の式乃南久利村に於り
田植に於ては諸式あり
祭神八坂入彦命　八坂入媛の霊を崇む

日本紀　景行天皇四年美濃泳宮行幸

万葉　百岐年三野國之高北之八十一

鱗乃宮尓日向尓行雁聞矣

夫木　いなばとやこの夕の海ふすむとひろ恵ゆ人ふおもむれて　藤人ちん

月　頼ゆくこゆ行ふ海の道のこゆくこゆ　光頼

和泉式部墓　仲岳より十町許ひゞゝおる本の
塚あり　塚ある半程
鬼窟　奥山に有　小関を郎といふ強盗
一名清水　仲岳より坂十町本村より中瀬洋うゝ
永保寺　仲岳の南長瀬村ふあり虎渓山と号し紀州天龍寺の
末派なり開基を義堂和尚天授四年三十一歩の礼あり
絶賞　北南五丁一

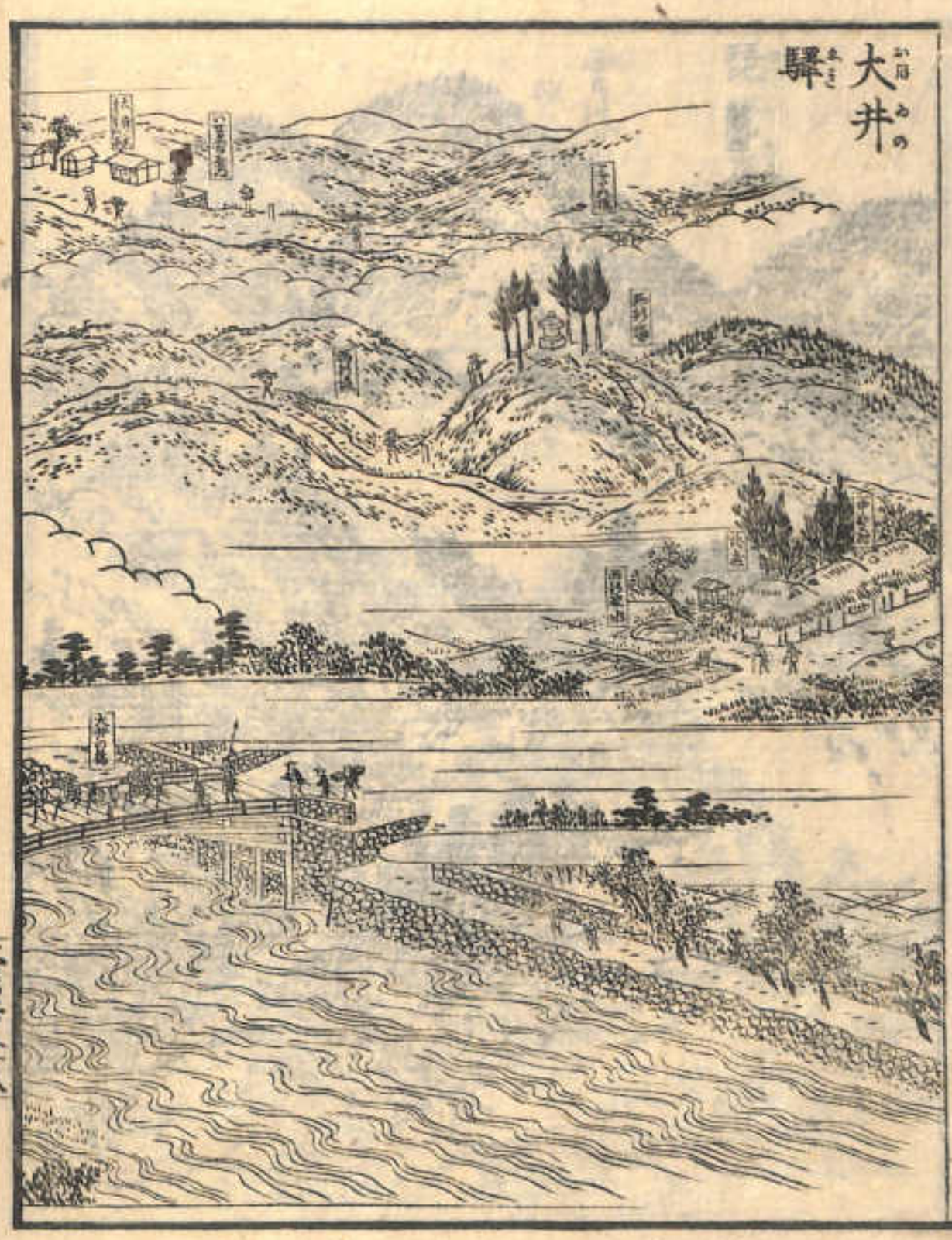
平巖　平岩村の左の方ふ平石
なり大巖あり

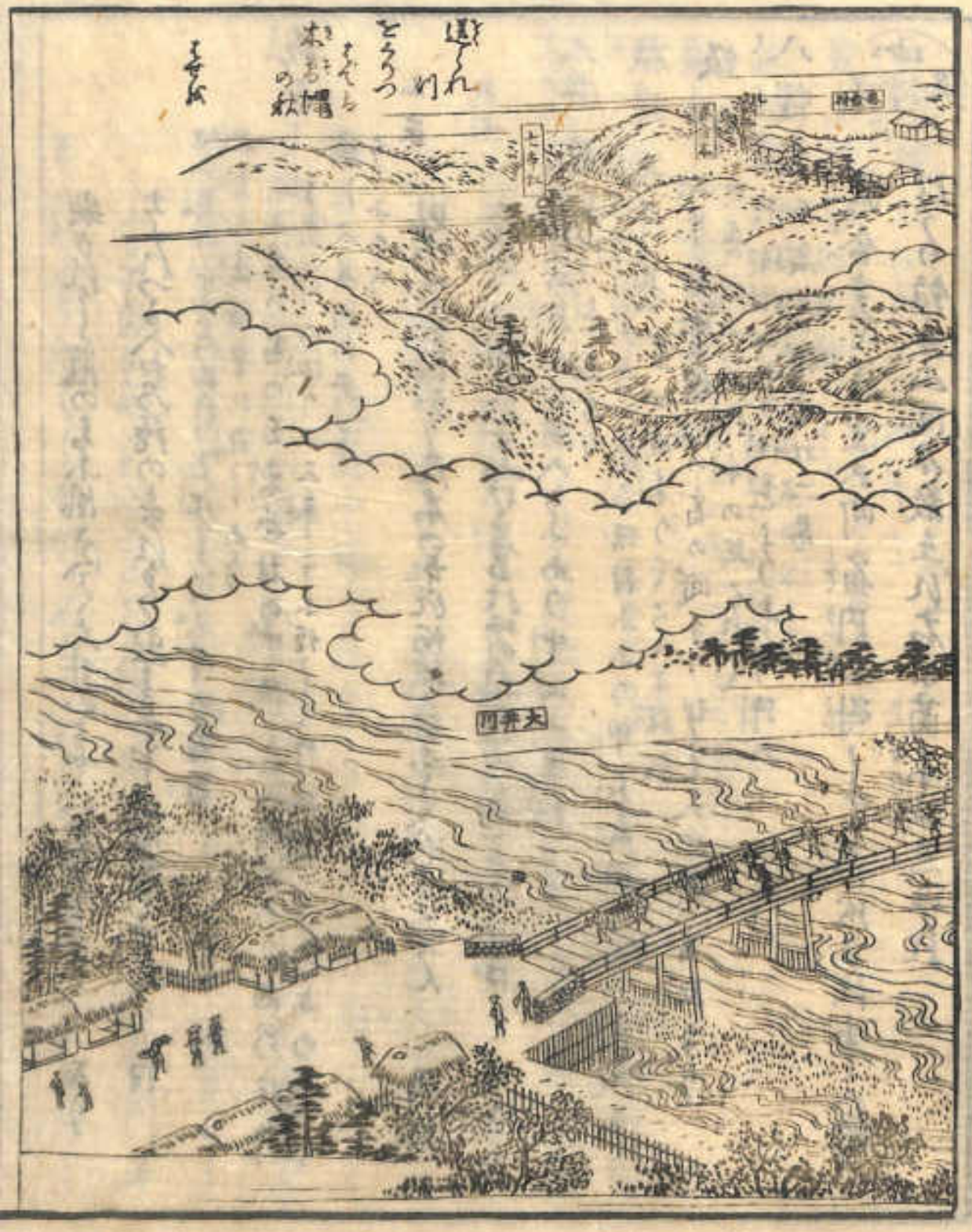
細久手（美濃）　大欠まで一里三十町山家之坂多し　糸より下ヲ下ハ下ハ下ハ登り
坂多くこれより次第に細久手ハ古地の高地なり
因幡日吉里　細久手の南土岐郡の内因幡日吉里　両村ハ隣ハ里あり
此所より三日月形の白石出る名石なり少し世ハ美濃
支本　墨ヲ流ス色ハ水ヲ流ス
山家　形ハ屋のけらひ高ハ高ハ肩の日吉里武ハ人て　西行
就歌　国ハ行ハ水ハ人ハ人ハ月ハ月ハ北里　後人
坂あて〳〵月日の糞や美あり　三州本巻

琵琶嶺　細久手より七里　下ヲ十町許　ゆるゝ小ゆらが宮の向山　麓　緑山の間
なり向かひへ小禁まて　日本三歩の高ハ山あり
母衣岩　琵琶嶺の下にあり
烏帽子岩　右の横ふ烏帽子　其形を見て名あり
大井より三里半　細久手大欠

大欠（美濃）　共本宿賊〳〵
竈山　大久手の南にあり
支本　美濃の国庫の山北日ハ名高ハ人ハ歌を愛する　後人
俗勢条宮又名古屋へ別道　尾金村山中にあり
七本松　尾金の東　七本松坂　絶妙を建ル
西行法師塚　大井の宿中里の中歩村　西行硯池　中世村
大井（美濃）　中津川まで武里半　武宿山中にあり
許斧を山間小歩生に　お斧の家三ヒ町

琵琶嶺
雲井峯
加州白乃
糸のき
浪花
輔


大井の驛


大井川

歌ともかゝ嵐の吉ふ風さへ大井のよそに聲をきく　西行

ちるを入れ乃淺の吉ほりと記して大井の宿内

此二首の千ゝ石ゆりと記して大井の宿内

稲荷山長岡寺に記し

花の山　大井の宿の南東北村の中路ゝ所ふあり西明法師

東山の中ゆりふ三年こゝふ住して作林房ゝ居の石碑を

遺れ又其所の井も

こゝふあり

山家　思ふこゝ花のかゝんの本の井に絶ぬ水くみ　西行

花盛　花の盛をみけ雪の風ふ吹て春と言ふ事は　後鳥羽

大井橋　大井の駅西の方へ山川を流る中間ふ橋掛る

根津甚平墓　大井の東石塔村ふあり甲斐武田信玄の家臣なり

坂本　大井の宿中津川の宿の間なり中ゝ此所宿駅なり

延喜式ふ坂本の駅これし

八幡宮　千話拝はあり社殿廣く拝殿末社二所

中津川（美濃）

落合まで壹里五町　宿内和野して巷所うん車ふ所

げゝ餘ゝ山間ふ教立ち有よ苗木城見ゆ

中川神社　中津川の宿ふあり延喜式内

今白ふと称に

恵奈神社　中津川宿の西ふあり延喜式内

社殿巍々たり

与坂番所　与坂峠ふあり尾州公

白木伊吹の麓ふ居り

落合五郎兼行霊社　落合の宿ふあり本名義仲四

庶物語の里こゝ落合の宿まで凡三十餘里美濃の境ふ

琵琶嶺こゝ山路ふあり美濃路ゝ壹歩駅栗田光典の考証ふ

吏こゝふ記をなるを

ふ蘭奈伏屋ゝ入こゝ幸三代実録ふ見こゝ天暦天徳の

頃こゝ奇ふを信濃を張こゝ落合こゝ移り雄日嶺まで四十

七里大畏山中ゝて坂多れどゝ行ゝ者所ふ山家ふ

ゆ人の心中ふ有て和とうこん猿金のこゝふ作方ふ

こゝふ山ふ山ふ又山川乃こゝ林木のまこゝ張列ふ

をこれこゝ居こゝ人こゝ彩こゝて道のゆこゝ

かゝる心ざしをもつて三尊初嘉の二体を雪深くしてゆきさゝ[illegible]
[illegible]を[illegible]道すゝど任領[illegible]
[illegible]紀[illegible]下[illegible]

本曾路名所圖會卷之二終

本巻之六十